



HP ep9010 シリーズ Instant Cinema デジタルプロジェクタ ユーザーズガイド



© Copyright 2004 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

本書の記載内容は、予告なしに変更される可能性があります。HP製品およびサービスに対する保証は、当該製品およびサービスに付属の明示的保証規定に記載されているものに限られます。本書のいかなる内容も、当該保証に新たに保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対しては責任を負いかねますのでご了承ください。著作権法で許可されている場合を除いて、ヒューレット・パッカード社の事前の書面による許可なく本書の複製、翻案、翻訳を行うことは禁止されています。

オーストラリアおよび英国における消費者取引: 上記の免責事項および制限は、オーストラリアおよび英国における消費者取引には該当せず、消費者の法的権利に影響しません。

DolbyはDolby Laboratoriesの商標です。

本製品はDolby Laboratoriesのライセンスを得て製造されています。MPEG Layer-3オーディオ符号化技術については、Fraunhofer IIS社およびThomson社のライセンスを得ています。

Hewlett-Packard Company
Digital Projection and Imaging
1000 NE Circle Blvd.
Corvallis, OR 97330

第1版 2004年7月

目次

1 セットアップ

安全上の注意	7
同梱内容	8
主な機能の説明	9
プロジェクト全体図	9
プロジェクトのボタンとライト	10
バックパネル	12
リモコン	13
アクセサリ	14
プロジェクトのセットアップ	15
レイアウトプラン	15
電源の接続	18
ビデオソースの接続	19
サウンドシステムの接続	25
複数のビデオソースの接続	27
コンピュータの接続	28
プロジェクトの電源のオン/オフ	29
プロジェクトの電源をオンにする	29
プロジェクトの電源をオフにする	30
プロジェクトの移動	30
基本調整	31
ソースの選択	31
プロジェクトの投影位置の調整	31
フォーカスとズームの調整	32
画像モードの変更	33

画像の形の調整.....	34
画像のゆがみの調整.....	35
音量の調整.....	35

2 DVDとCDの再生

内蔵DVDプレーヤの使用.....	37
DVDの再生.....	38
さまざまな再生オプションの使用.....	39
DVDメニューを開く.....	39
画像の表示.....	40
オーディオCDの再生.....	40

3 ビデオの表示

ビデオソースの表示.....	43
画像の非表示または表示.....	43
コンピュータの画面の表示.....	43

4 プロジェクタの調整

画像とサウンドの調整.....	45
画像の調整.....	45
サウンドの調整.....	45
プロジェクタのセットアップの調整.....	46
オンスクリーンメニューの使用.....	46
オンスクリーンメニューを使用して設定を変更する.....	46
入力メニュー.....	47
画像メニュー.....	47
サウンドメニュー.....	49
セットアップメニュー.....	49
ヘルプメニュー.....	49

5 プロジェクタのメンテナンス

プロジェクタのステータスを見る.....	51
プロジェクタのレンズのクリーニング.....	51

ランプモジュールの交換	52
リモコンの電池を交換する	53

6 問題の解決

トラブルシューティングのヒント	55
警告ライトの問題	55
始動時の問題	56
画像の問題	56
DVDプレーヤの問題	59
サウンドの問題	60
停止の問題	61
リモコンの問題	62
プロジェクトのテスト	62

7 サポートと保証

サポート	63
HPサポートへのお問い合わせ	63
HP修理サービスのお問い合わせ	65
限定保証	65
HPデジタルプロジェクト限定保証条項	65

8 参考情報

仕様	69
安全情報	72
レーザの安全性	72
LEDの安全性	72
水銀の安全性	73
規制情報	73
Japan	74
国際	74

索引

セットアップ

安全上の注意



警告: 怪我および機器の損傷を未然に防ぐため、以下の注意事項ならびに本マニュアルに記載の関連情報をよく読みの上、お守りください。

- ランプが点灯しているあいだは、プロジェクタのレンズをのぞかないでください。
- プロジェクタを湿気の多い場所に放置しないでください。また水気のある場所では使用しないでください。
- 印刷用紙、プラスチック、および可燃性物質はプロジェクタのレンズや排気口から0.5 m以上離してください。
- 液体、食物、小物をプロジェクタ内部に落とさないでください。万一、プロジェクタ内部にこれらのものが入った場合は、HPにご相談ください。
- プロジェクタの上には何も置かないでください。プロジェクタにかかる恐れがある場所に液体を置かないでください。
- プロジェクタの排気口をふさがないでください。ラジエータやアンプなどの熱源の近くにはプロジェクタを置かないでください。
- 製品ラベルに記載された電圧および電流定格に適合する電源コードのみを使用してください。たこ足配線を避け、コンセントや延長コードに負荷がかかりすぎないようにしてください。電源コードのアース端子は必ず使用してください。
- ケーブルを踏んだり、つまづいたりしないよう、ケーブルの配線にご注意ください。
- プロジェクタは設置スタンドが水平になるよう、固定用器具上に設置してください。プロジェクタの前面を下にして置かないでください。
- 指で直接レンズに触れないでください。51 ページの「プロジェクタのレンズのクリーニング」を参照してください。プロジェクタのケースをクリーニングするときは、柔らかく乾いた布を使用してください。
- このマニュアルで指示されたとき以外はプロジェクタを開かないでください。また開くときは、プロジェクタが十分に冷却したあとにしてください。
- プロジェクタが万一破損した場合は、HPにご連絡ください。

同梱内容

프로젝터를セットアップする前に、梱包ケースに以下の品目が入っていることを確認してください。以下のいずれかの品目が不足している場合は、HPまでご連絡ください。



梱包ケースを開いて内容物を取り出したら、 프로젝터를搬送する場合に備えて、梱包ケースを保管しておいてください。



同梱内容の説明

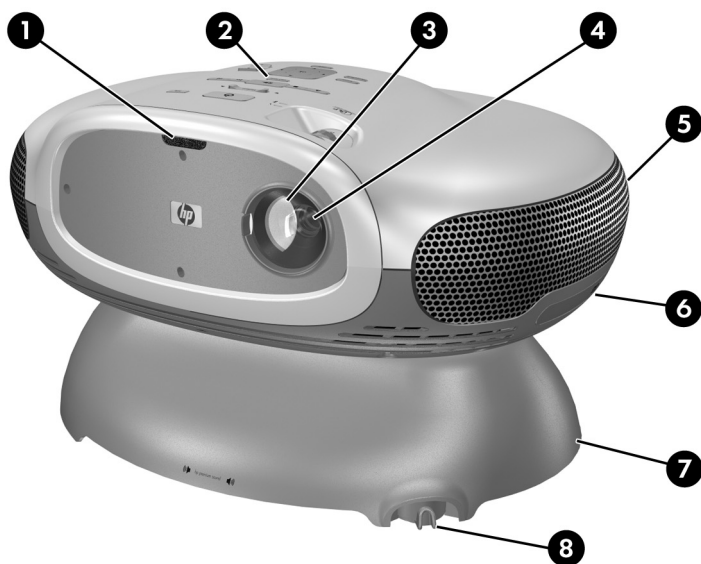
名称	機能
① プロジェクタ	画像を表示します。
② リモコン (単三電池2個)	프로젝터를操作します。
③ SCART/Sビデオアダプタ	SCART対応出力ソースをSビデオまたはコンポジットビデオケーブルに接続します。
	一部のモデルにのみ同梱されています。

同梱内容の説明 (続き)

名称	機能
④ DVI/VGAアダプタ	VGAケーブルをプロジェクタのDVIポートに接続します。
⑤ ユーザーズガイドが入ったパッケージ	プロジェクタのセットアップと使用方法に関するマニュアル類が含まれます。
⑥ クイックセットアップガイド	プロジェクタを最初に使用するときの手順が記載されています。
⑦ 電源コード	プロジェクタを電源に接続します。

主な機能の説明

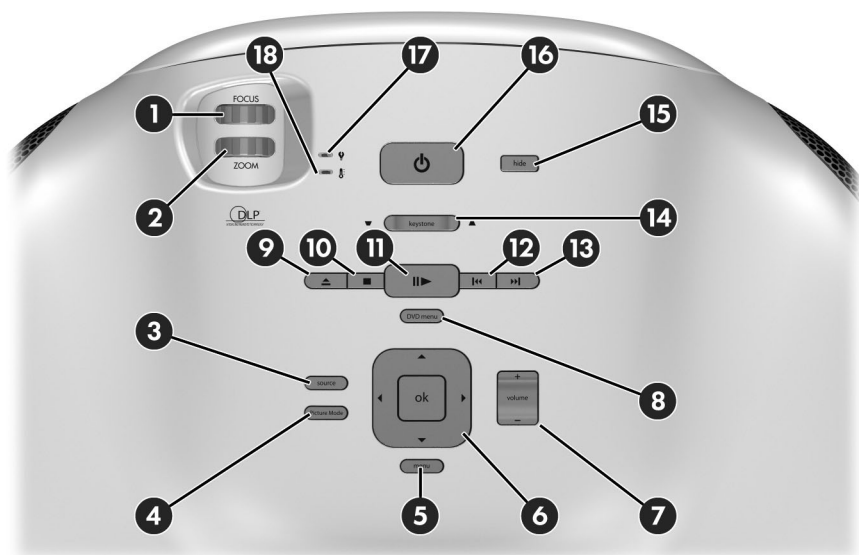
プロジェクタ全体図



主なコンポーネントの説明

名称	機能
① 赤外線ポート	リモコンからの信号を受信します。
② ボタンパネル	コントロールボタンとインジケータライトが配置されています。
③ レンズカバー	レンズを保護します。
④ レンズ	画像を投影します。
⑤ スピーカ (4)	ステレオサウンドを出力します。
⑥ DVDトレイ	DVDまたはCDを再生します。
⑦ サブウーファ付きベース	低周波の音響効果を作ります。
⑧ テルトレバー	プロジェクタの上下位置を調整します。

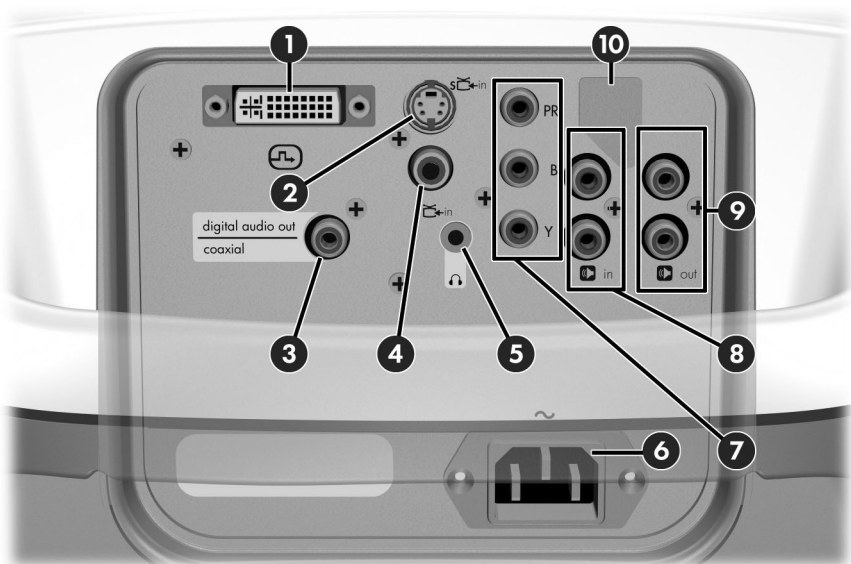
プロジェクタのボタンとライト



プロジェクタのボタンとライトの説明

名称	機能
① フォーカスリング	投影距離を1mから10mの間で調節します。
② ズームリング	画像のサイズを100%から116%まで拡大します。
③ ソースボタン	次の入力ポートからの画像を表示します。
④ 画像モードボタン	次に投影する画像とカラーコンビネーション (カスタマイズ可能) を選択します。
⑤ メニューボタン	プロジェクタのオンスクリーンメニューを開閉します。
⑥ ナビゲーションボタン: 上、下、左、右、ok	プロジェクタメニューまたはDVDメニュー内の項目を選択します。
⑦ 音量調整	音量を上下します。
⑧ DVDメニューボタン	DVDのメニューを開きます。
⑨ イジェクトボタン	DVDトレイを開閉します。
⑩ 停止ボタン	DVDまたはCDの再生を停止します。
⑪ 再生/一時停止ボタン	DVDまたはCDを再生するか、再生を一時停止します。
⑫ 次へボタン	DVDまたはCD上で、次の項目を再生します。
⑬ 前へボタン	DVDまたはCD上で、前の項目を再生します。
⑭ キーストーン補正	投影画像のゆがみをなくすために、画像を調整します。
⑮ 非表示ボタン	画像を非表示、スピーカをミュートして、内蔵のDVDプレーヤを一時停止します。
⑯ 電源ボタン	プロジェクタの電源をオン/オフします。
⑰ ランプインジケータライト	ランプが不良のときに警告します。
⑱ 温度インジケータライト	プロジェクタが加熱したときに警告します。

バックパネル



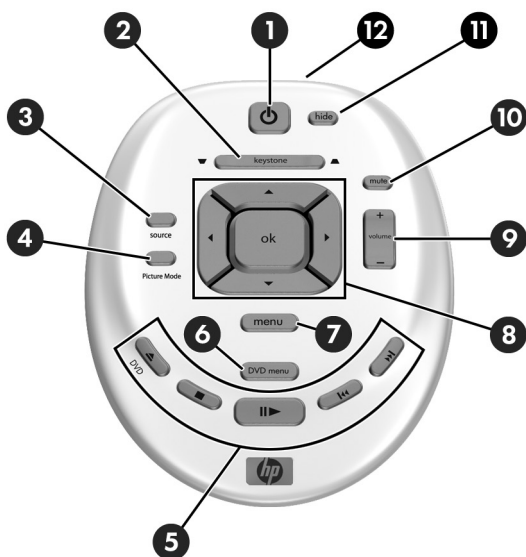
背面パネルコンポーネントの説明

名称	機能
① DVI入力ポート	DVIビデオソースを接続します。コンピュータのビデオソースもサポートします。
② Sビデオ入力ポート	Sビデオソースを接続します。
③ デジタルオーディオ出力ポート	5.1chデジタルサウンドシステムに接続します。
④ コンポジットビデオ入力ポート	コンポジットビデオソースを接続します。
⑤ ヘッドフォン出力ポート	ヘッドフォンを接続します。
⑥ 電源コードソケット	プロジェクタの電源コードを接続します。
⑦ コンポーネントビデオ入力ポート (YPbPr)	コンポーネントビデオソースを接続します。
⑧ オーディオ入力ポート	ステレオオーディオソースを接続します。
⑨ オーディオ出力ポート	ステレオサウンドシステムに接続します。
⑩ サービスポート	修理サービス専用。

リモコン



リモコンを使用する前に、単4電池2個を装着してください。53ページの「リモコンの電池を交換する」を参照してください。



リモコン各部の説明

名称	機能
① 電源ボタン	プロジェクタの電源をオン/オフします。
② キーストーン補正	投影画像のゆがみを補正します。
③ ソースボタン	次の入力ポートからの画像を表示します。
④ 画像モードボタン	次の画像とカラーコンビネーションを選択します。カスタマイズ可能です。
⑤ DVDボタン	DVDプレーヤーを制御します。10ページの「プロジェクタのボタンとライト」を参照してください。
⑥ DVDメニューボタン	DVDのメニューを開きます。

リモコン各部の説明 (続き)

名称	機能
⑦ メニューボタン	プロジェクタのオンスクリーンメニューを開閉します。
⑧ ナビゲーションボタン: 上、下、左、右、ok	プロジェクタメニューまたはDVDメニュー内の項目を選択します。
⑨ 音量調整	音量を上下します。
⑩ ミュートボタン	サウンドをオンまたはオフにします。
⑪ 非表示ボタン	画像を非表示、スピーカをミュートして、内蔵のDVDプレーヤを一時停止します。
⑫ 赤外線レンズ	リモコンからプロジェクタに信号を送ります。

アクセサリ

HPプロジェクタ用アクセサリを使用すれば、より効果的なホームシアターを実現できます。アクセサリは、<http://www.hp.com> またはプロジェクタ販売店にてお買い求めください。

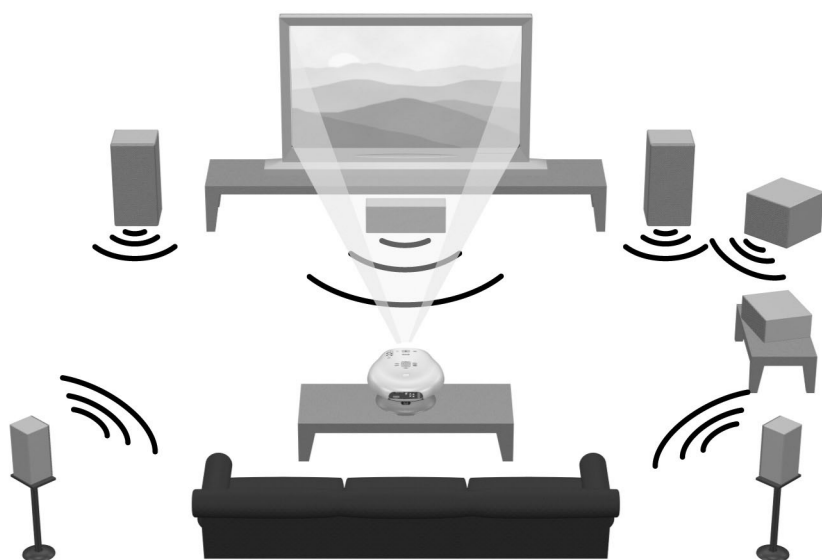
- ハンドル付きHPモバイルスクリーン: どこにでも携帯でき、簡単にセットできます。
- HP電源ケーブル: あらゆる地域に対応しています。
- HPケーブル: あらゆるオーディオビデオ機器を接続できます。
- HP交換用ランプ: プロジェクタに出荷時と同じような真新しい輝きをもたらします。

プロジェクトのセットアップ

レイアウトプラン

室内のレイアウトを考える際は、以下の点を考慮に入れてください。

- 室内のレイアウトと下記の距離チャートを参考にして、プロジェクトと画面の配置およびスクリーンサイズを決めてください。なお、プロジェクトのズームコントロール機能を使用することにより、これらの条件はいくらか調整がききます。
- プロジェクトがスクリーンに向かって真っ直ぐであり、またスクリーンに対して垂直になるようにしてください。さもなければ、画像のバランスが悪くなります。
- 最良の画像を得るには、ある程度品質の良い投影スクリーンをお買い求めください。スクリーンによっては広角度投影用に設計されていたり、スクリーン中央の輝度を高めるように設計されているものがあります。表面が平らでホワイトカラーまたはライトグレーのスクリーンなども、投影品質の高い画像が得られます。
- 最も快適にご覧になるには、プロジェクトの快適視野ライン周囲の近くにお座りください。スクリーンの材質などの問題により、スクリーンの中央線上から離れた場所では、快適にご覧になれない場合があります。
- スクリーンとプロジェクトとだいたい等距離 (プロジェクトと同じ位置) でご覧になるのが最適です。
- スクリーンは、できればスクリーン底辺がプロジェクトより若干上になるように配置してください。
- 照明が調整しやすいように部屋をレイアウトしてください。一般には最小限の照明が好まれますが、スクリーン上への周辺光を抑えることにより、ある一定の結果が得られます。照明が明るすぎると、色あせた感じの画像になってしまいます。
- 最も一般的なビデオソースはDVDプレーヤーですが、このほかにオーディオ/ビデオ受信機、ビデオデッキ、ハードディスクレコーダ、ビデオゲーム機器、衛星放送受信機などもあります。
- ユーザ個人の環境にしたがって、プロジェクトまでのケーブル長がなるべく短くなるような機器をお選びください。ケーブル長が3 m以上の場合は、ビデオおよびオーディオの品質を保つために、高品質、低損失ケーブルをご使用ください。
- よりリアルなホームシアターを体験するには、Dolby Digitalシステムなど、5.1chサラウンドサウンドシステムを用意するとよいでしょう。このシステムには5個のスピーカと1個のサブウーファが備わっています。
- 外付けのサウンドシステムの場合、スピーカのレイアウト例について以下の図を参照してください。前面スピーカはすべてリスナーから等距離に、サブウーファは壁または部屋の角に配置します。また、サラウンドスピーカはリスナーの頭と同じ高さにくるように配置します。スピーカはいろいろな場所に配置して試してみてください。



最も良い画像を得るには、プロジェクタをスクリーンから1.5mから5m以内に配置します。

画像サイズとスクリーン投影距離

画像サイズ (対角)		画像サイズ (幅)		距離 (レンズとスクリーン間)	
(インチ)	(メートル)	(インチ)	(メートル)	(インチ)	(メートル)
30	0.8	24	0.6	41~48	1.1~1.2
40	1.0	32	0.8	55~64	1.4~1.6
60	1.5	48	1.2	83~96	2.1~2.4
80	2.0	64	1.6	110~128	2.8~3.3
100	2.5	80	2.0	138~160	3.5~4.1
120	3.0	96	2.4	166~192	4.2~4.9
150	3.8	120	3.0	207~240	5.3~6.1
180	4.6	144	3.7	248~288	6.3~7.3
200	5.1	160	4.1	276~320	7.0~8.1
240	6.1	192	4.9	331~384	8.4~9.8
270	6.9	216	5.5	372~396	9.5~10.0

電源の接続

1. スクリーン前面から 1 ～ 10m 離れた位置にある安定した台の上にプロジェクタを置きます。プロジェクタを置く台は、スクリーン底辺よりも低い位置が理想的です。



プロジェクタはカーペットや布など、柔らかい表面上に置かないでください。サブウーファのサウンド効果が極端に悪くなります。

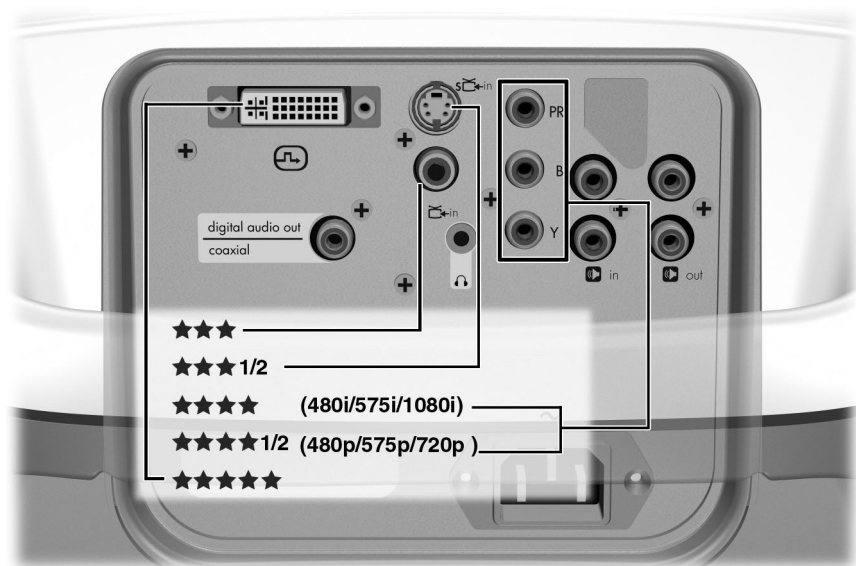
2. 電源コードの一方の端をプロジェクタの背面 ❶ に接続し、もう一方の端をアース付き電源コンセント ❷ に差し込みます。



ビデオソースの接続

内蔵のDVDプレーヤーには最良の画質と便利なりモコンが備わっています。外部ビデオソースを接続する場合は、画質について考慮してください。

ビデオ機器の多くは、数種類の出力ポートを備えています。これらの機器をプロジェクタに接続する際は、最も高い画質を提供できる接続方法を選択してください。以下の図には、各ポートに対応する画質を星の数で示しています。複数のビデオソースがある場合は、別のポートに接続できます。または、オーディオ/ビデオ受信機器に接続したり、受信機をプロジェクタに接続したりできます (27ページの「複数のビデオソースの接続」を参照)。



次ページ以降で示すケーブルは、本プロジェクタには同梱されていません。外部オーディオシステムがない場合は、外部ビデオソースのオーディオ出力をプロジェクタのオーディオ入力に接続することができます。



TVを含むホームシアターシステムをすでにお持ちの場合は、TVのかわりに表示機器としてプロジェクタを接続することも可能です。

コンポーネントビデオソースの接続

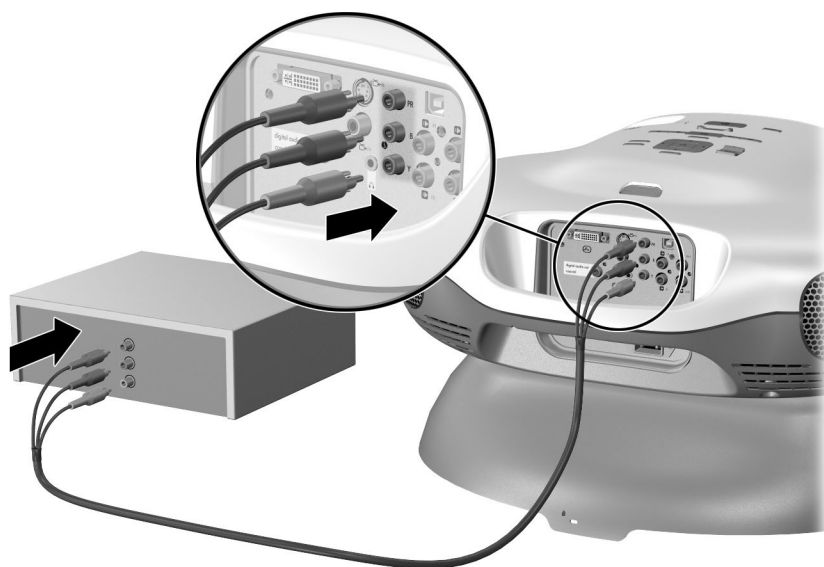
例: ケーブルボックス、DVDプレーヤー、衛星放送受信機、オーディオビデオ受信機

必要なもの:

- コンポーネントビデオケーブル



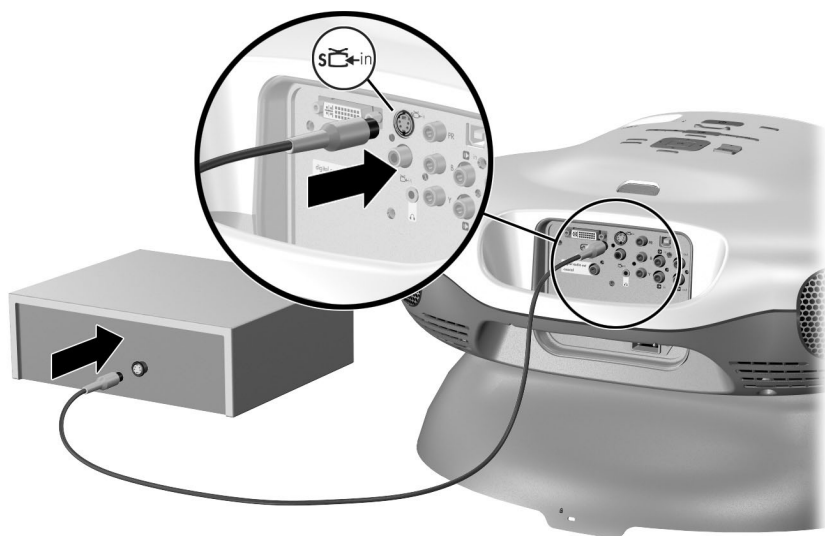
- 多くのDVDプレーヤーや高品質のビデオ機器はコンポーネントビデオ出力を装備しています。このうち、3つのRCAコネクタはそれぞれYPbPrまたはYCbCrとラベルづけされています。
 - 可能ならば、480p、575pまたは720pなどのプログレッシブスキャン出力ビデオソースを使用できるようにビデオソースを構成してください。詳細は、ビデオソースに付属のマニュアルを参照してください。
-



Sビデオソースの接続

例: DVDプレーヤ、ビデオデッキ、ケーブルボックス、ビデオカメラ、ビデオゲーム機器など
必要なもの:

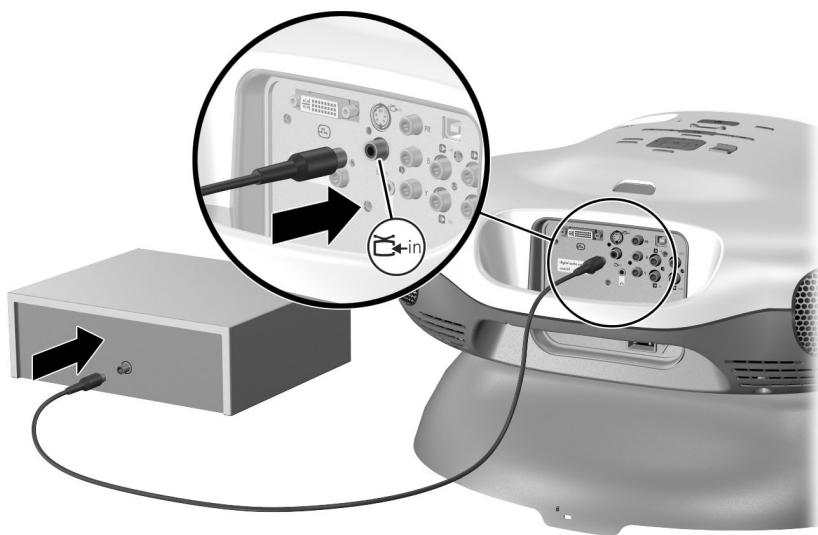
- Sビデオケーブル



コンポジットビデオソースの接続

例: ビデオデッキ、DVDプレーヤ、オーディオビデオ受信機、ビデオゲーム機器など
必要なもの:

- コンポジットビデオケーブル

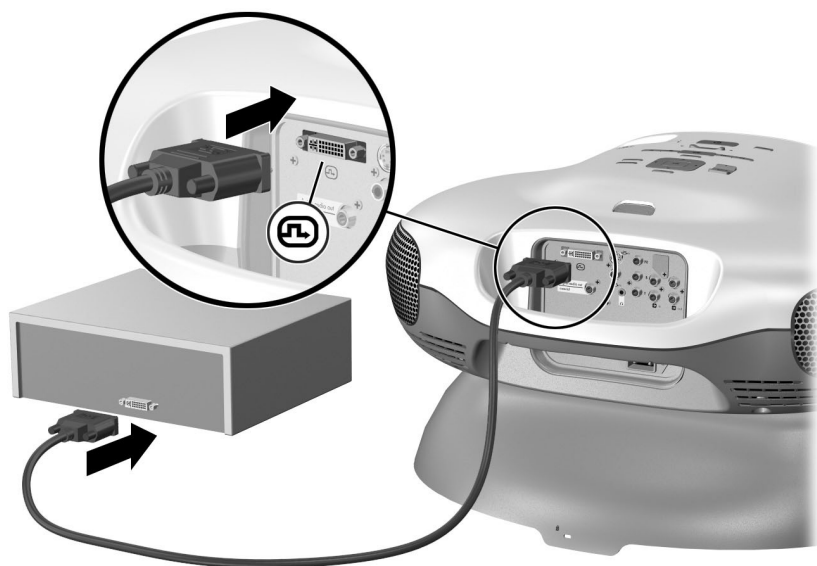


DVIソースの接続

例: ケーブルボックス、衛星放送受信機、および一部のコンピュータ

必要なもの:

- DVIケーブル

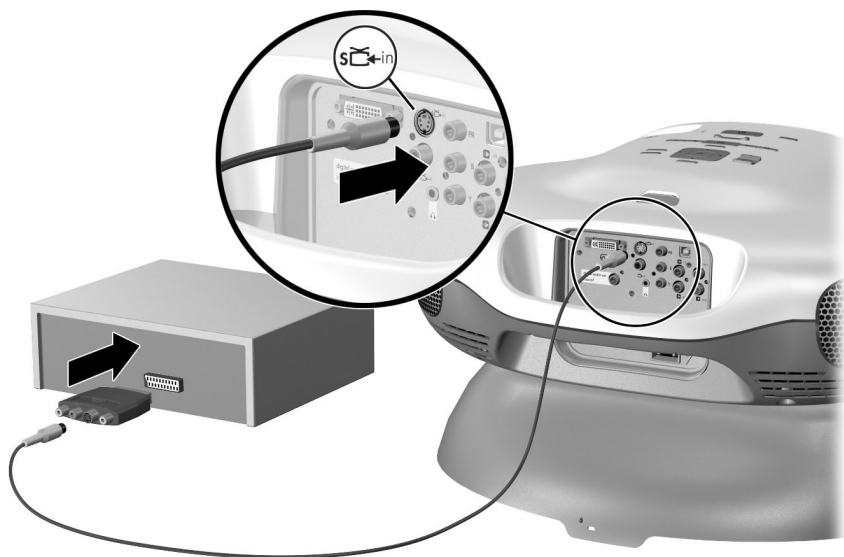


SCARTソースの接続

例: ビデオデッキおよびDVDプレーヤ

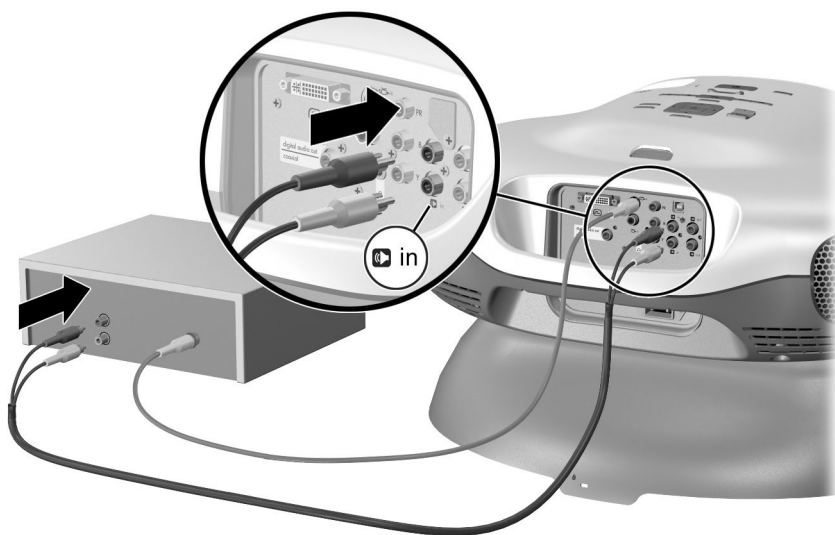
必要なもの:

- Sビデオケーブル (または、ビデオソースがSビデオ出力を装備しない場合はコンポジットビデオケーブル)
- Sビデオ/SCARTアダプタ (一部のモデルに同梱)



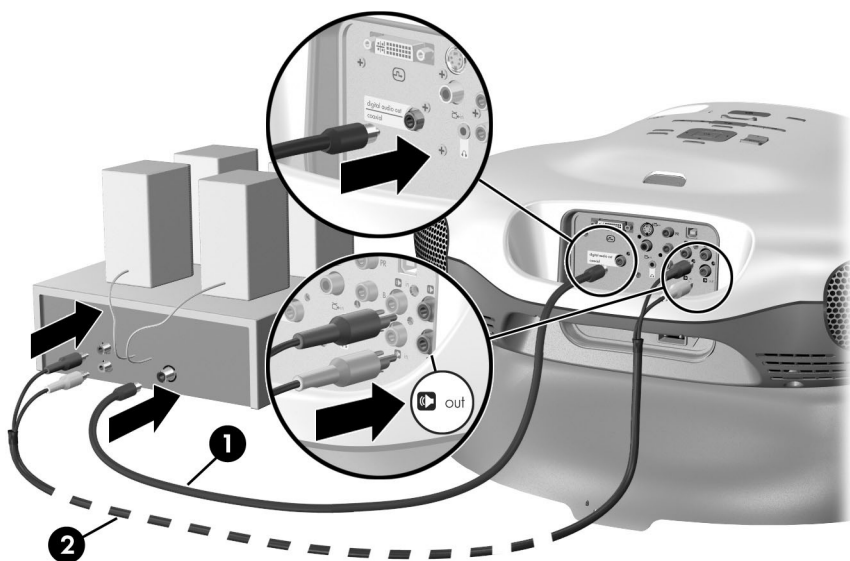
サウンドシステムの接続

本プロジェクタには高品質2.1サウンドシステムが内蔵されています。内蔵のDVDプレーヤを使用する場合、接続ケーブルは不要です。外部ビデオソースをプロジェクタに接続する場合、ビデオソースのオーディオ出力をプロジェクタのオーディオ入力に接続することもできます。



音声を外に漏らさずに聴きたい場合は、ステレオヘッドホンをヘッドホン出力に接続します。これにより、内蔵スピーカから音声が聞こえなくなります。

ホームシアターシステムまたは外部サウンドシステムがある場合、内蔵DVDプレーヤのオーディオ出力を外部サウンドシステムに接続できます。フルサラウンドサウンドを楽しむために、5個のスピーカと1個のサブウーファを持つ5.1chサラウンドシステムを接続することができます (以下の図の接続方法 ①)。デジタルオーディオ出力は、内蔵のDVDプレーヤを使用中のみ有効になります。デジタルオーディオ接続には、通常のオーディオケーブルではなく、デジタル同軸ケーブルが必要です。または、ステレオサウンドシステムをプロジェクタに直接接続することもできます (以下の図の接続方法 ②)。



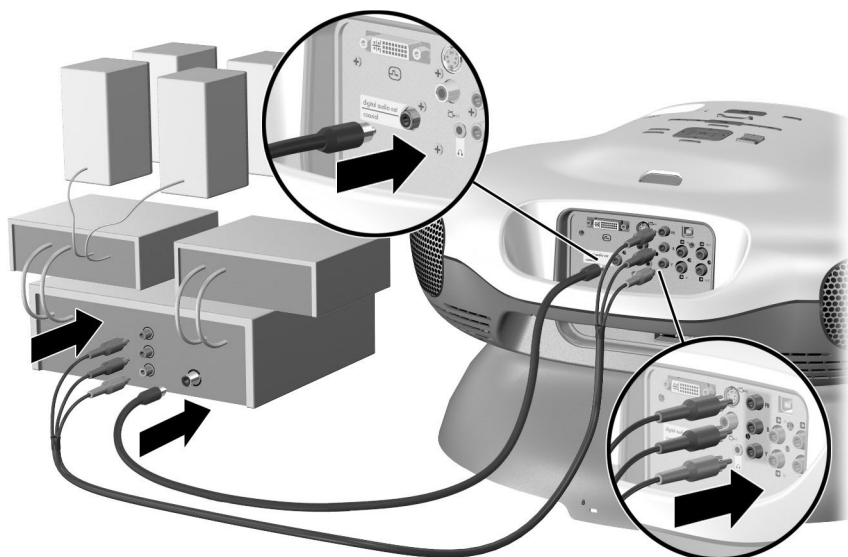
外部サウンドシステムを接続する場合、内蔵スピーカをオフに設定します。**[メニュー]** ボタンを押して、**[サウンド] > [内蔵スピーカ]**の順に選択して、スピーカをオフにします。

複数のビデオソースの接続

複数のビデオソースがある場合、まず、これらのビデオソースを1台のオーディオ/ビデオ受信機またはスイッチボックスに接続し、その後、受信機またはスイッチボックスのビデオ出力から高品質のコネクタを使用してプロジェクタに接続します。すべてのビデオソースのオーディオ出力も受信機、スイッチボックス、またはサウンドシステムに接続します。



プロジェクタのデジタルオーディオ出力またはステレオオーディオ出力を受信機、スイッチボックス、またはサウンドシステムに接続します。これにより、内蔵のDVDプレーヤの音声サウンドシステムに送信されます。

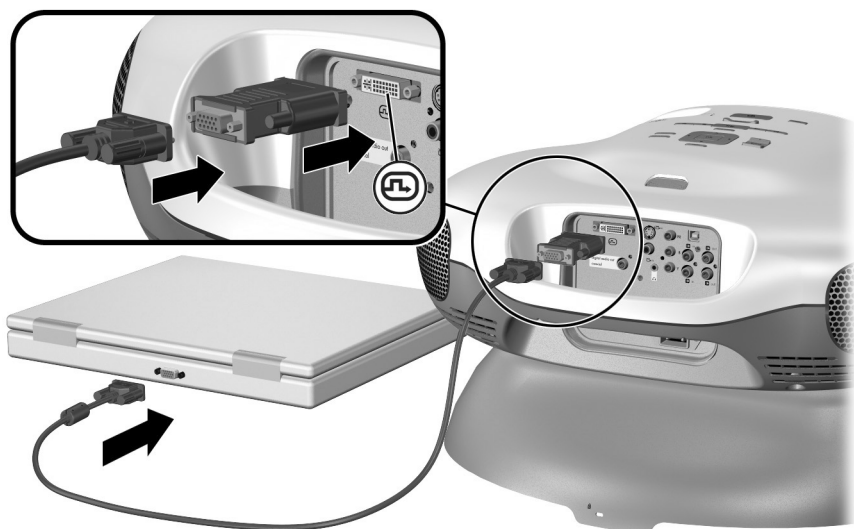


コンピュータの接続

コンピュータをプロジェクタに接続して、コンピュータの画面をスクリーンに映し出すことができます。これには、DVI/VGAアダプタ (本プロジェクタに同梱) とVGAケーブル (別売) が必要です。

必要なもの:

- DVI/VGAアダプタ
- VGAケーブル



43ページの「コンピュータの画面の表示」を参照してください。



コンピュータの画面がプロジェクタに表示されない場合、コンピュータの複数のキーを同時に押して、コンピュータのVGA出力をオンにする必要があります。例えば、コンピュータによっては、Fn+F4 または Fn+F5 を同時に押さなければなりません。詳細は、コンピュータに付属のマニュアルを参照してください。

プロジェクタの電源のオン/オフ

プロジェクタの電源をオンにする

1. 電源コードが接続されていることを確認してください。
2. レンズのカバーを左にスライドさせて **①**、レンズを開きます。
3. プロジェクタまたはリモコンの電源ボタン **②** を押します。

プロジェクタがウォームアップするまで1分ぐらいかかります。ウォームアップの間、電源ボタンが点滅します。



プロジェクタのパーツやプロジェクタの排気が暖かいのは通常の状態であり、問題ありません。プロジェクタは過熱状態になると、温度警告ライトが点灯し、自動的にシャットダウンします。

プロジェクトの電源をオフにする

1. プロジェクトの電源をオフにするには、プロジェクトの電源ボタンまたはリモコンの電源ボタンを押します。電源ボタンは押し続けしないでください。

クールダウン中は電源ボタンが点滅し、やがてプロジェクトの電源がオフになります。プロジェクトの電源がオフになっても、プロジェクト内部では少量の電源が消費されています。

2. クールダウン中または電源ボタンの点滅が停止した後に、ビデオ機器やオーディオ機器をプロジェクトから取り外してもかまいません。



注意: プロジェクトが完全にクールダウンし (冷却ファンが停止する)、電源ボタンの点滅が消えるまでは、プロジェクトの電源コードを抜かないでください。これは、ランプの寿命を低下させるのを防ぐためです。

3. プロジェクトの電源コードを抜いたり、プロジェクトを取り外さなければならない場合は、電源ボタンのライトの点滅が消えてから行ってください。

クールダウン中にプロジェクトの電源ボタンを再度押しても、またはDVDトレイにディスクを挿入しても、プロジェクトはオンにはなりません。クールダウンが終了し、電源ボタンの点滅が消えるまでお待ちください。

プロジェクトの移動

プロジェクトを移動するときは:

- プロジェクトが完全にクールダウンするまで待ちます。その後、ケーブルをすべて取り外します。
- 激しい揺れや衝撃を避けてください。できるだけ、ソフトケースなどに入れて持ち運んでください。
- 温度と湿度制限を守ってください (69ページの「仕様」を参照)。プロジェクトが冷えている場合は、結露を避けるためにゆっくりとウォームアップしますので、しばらくお待ちください。

基本調整

ここでは、プロジェクタの基本的な調整方法について説明します。

ソースの選択

スクリーン上にビデオソースの画像が表示されない場合は、正しいソースを選択します。

- 画像が表示されるまで、またはビデオソースが接続されているビデオポート名が表示されるまで **source** ボタンを1回または数回押します。

ビデオソースの電源がオンになっており、ビデオを再生中であることも確認してください。

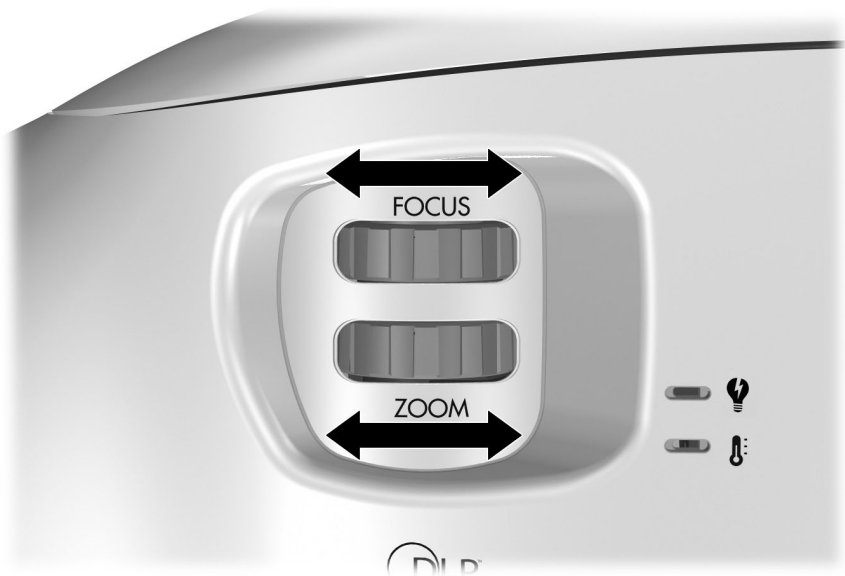
プロジェクタの投影位置の調整

- スクリーンの投影画像の上下位置を調整するには、設置スタンド **①** の上のプロジェクタを上下に押します。
- 投影画像のレベルを調整するには、調整脚 **②** のハンドルを動かします。



フォーカスとズームの調整

1. フォーカスリングを回して、画像が鮮明になるように調整します。本プロジェクタで焦点が合う距離は、1～10 mです。
2. ズームリングを回して、画像の大きさを100%～116%の範囲で調整します。

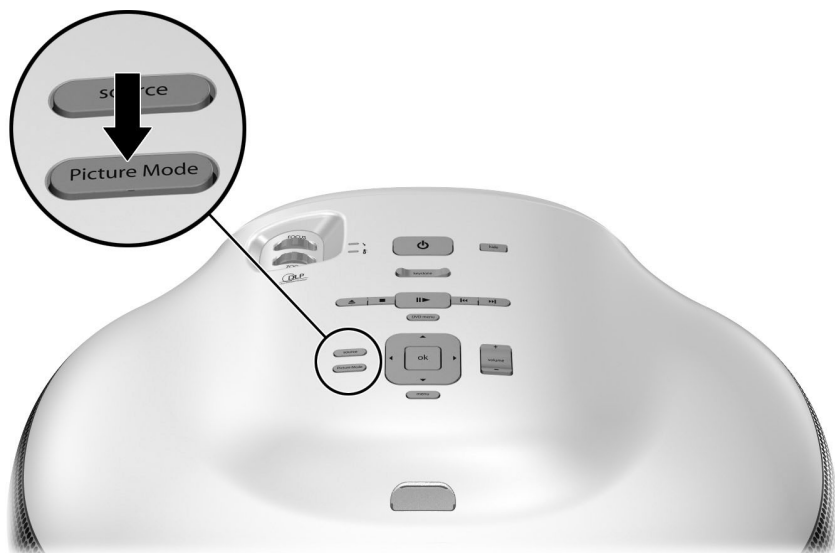


画像がスクリーンサイズに適さない場合は、プロジェクタをスクリーンに近づけるか、遠ざけるかしてください。

画像モードの変更

ビデオソースの映像を表示している間に、別の画像モードに素早く変更して、その画像を調整することができます。画像モードではカラーやサイズなどのプロパティを制御でき、室内の照明やビデオ映像のタイプに最適な設定を簡単に選択できます (45ページの「画像の調整」を参照)。

- **picture mode** ボタンを数回押して、画像に最も適した画像モードを選択します。



以下の手順で、画像モードを使用中のビデオソースに適したモードにカスタマイズすることもできます。

1. **picture mode** ボタンを押して調整したい画像モードを選択します。
2. **menu** を押して、**画像 > 画像モードのカスタマイズ**を選択します。
3. 満足する画像になるまで、設定値を調整します。
4. **menu** を押してオンスクリーンメニューを閉じます。

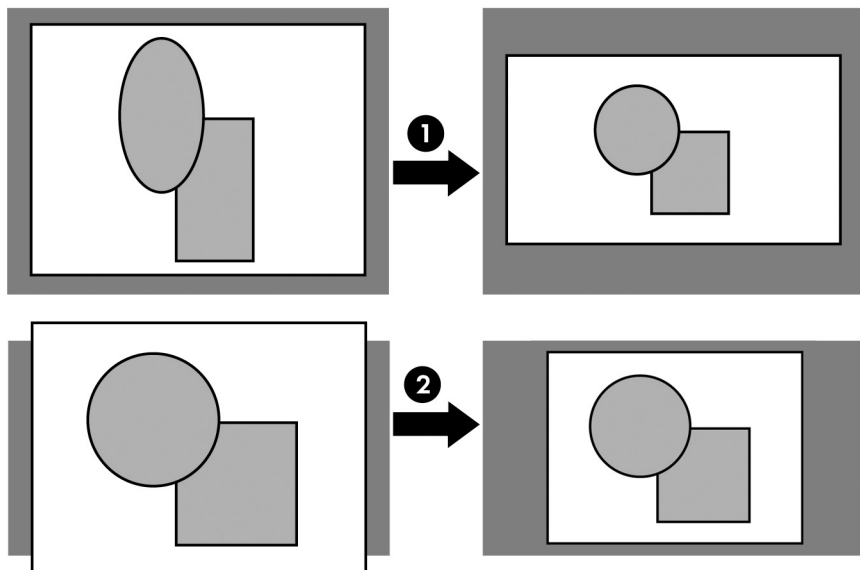
画像の形の調整

表示しているビデオソースの種類によっては、スクリーンに投影される画像の見え方が実際とは違っていたり、スクリーン内にフィットしない場合があります。

- 使用中のビデオ機器からの出力がワイドスクリーンの場合、**menu**を押して、**画像 > 形の設定**の順に選択し、**ワイドスクリーン入力**を**あり**に設定します。以下の図の **①** を参照してください。
- ビデオ機器からの出力が標準の場合、**ワイドスクリーン入力**を**なし**に設定します。



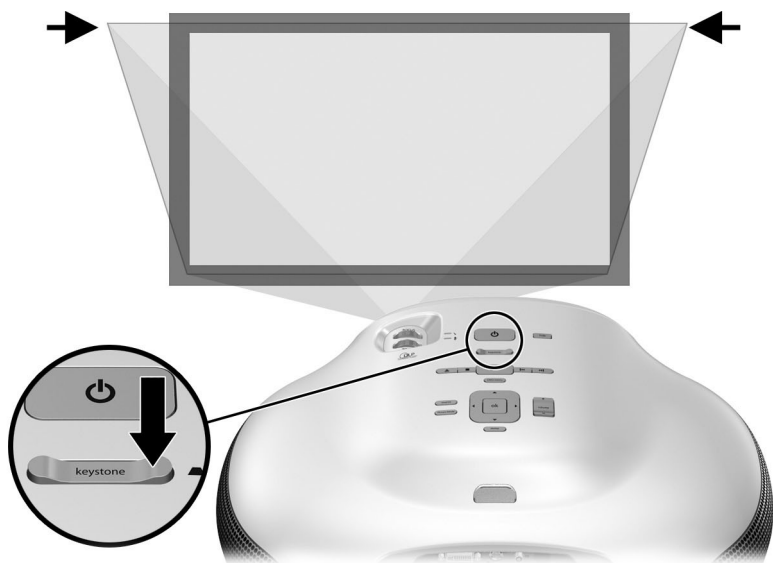
ワイド投影スクリーン上にワイドスクリーン画像を投影する場合、標準画像ではスクリーンサイズに合いません。この問題を解決するには、現在の画像モードを変更して投影画像のサイズを小さくします。**menu**を押して、**画像 > 画像モードのカスタマイズ**の順に選択し、**拡大**を**縮小**に設定します。以下の図の **②** を参照してください。



画像のゆがみの調整

プロジェクタが上下に角度調整されている場合、スクリーンに投影された画像の上下の辺は水平でも左右の辺が内側または外側に傾斜してしまうことがあります。このような問題を解決するには、以下の手順でキーストーン補正を行います。

- プロジェクタまたはリモコンの**keystone**を押して、画像のゆがみがなくなるまで調整します。



オンスクリーンメニューでもキーストーン補正を行うことができます。**menu**を押して、**画像 > 形の設定 > キーストーン**の順に選択し、画像を調整します。



画像の上辺および下辺が異なる方向に傾斜している場合、プロジェクタがスクリーンの正面を真っ直ぐ向くように (片側にずれないように) プロジェクタを動かしてください。

音量の調整

以下の手順でプロジェクタのスピーカとヘッドホンの出力音量を制御できます。

- プロジェクタのスピーカの音量を変更するには、プロジェクタまたはリモコンの**volume**を押します。
- サブウーファの音量を変更するには、**menu**を押して、**サウンド > サブウーファ**の順に選択し、調整します。
- サウンドをオン/オフにするには、リモコンの**mute**ボタンを押すか、**menu**を押して、**入力 > ミュート**の順に選択してサウンドをミュートします。

DVDとCDの再生

内蔵DVDプレーヤの使用

内蔵DVDプレーヤは、以下の表に示す複数のタイプのビデオ、グラフィックス、オーディオディスクを再生することができます。この表にないディスクはサポートされていません。

ディスクのタイプ	コメント
DVDビデオ	標準のビデオ、1層または2層ディスク。Dolby DigitalおよびDolby Pro Logicサラウンドサウンド効果を最大限活かすためには、外付けのサラウンドサウンドシステムを接続してください。DTSサラウンドサウンドを再生する場合は、DTSサラウンド対応の外付けサウンドシステムを接続する必要があります。
VCD SVCD	ビデオCD。ビデオCDがセットされるとビデオが再生されます。
JPGディスク Kodak Picture CD	画像を自動スライドショーで表示します。40ページの「画像の表示」を参照してください。ファイルシステムがISO 9660規格に適合している必要があります。
デジタルオーディオCD	標準のオーディオCD。トラック順に曲を再生します。曲目リストを表示した状態またはランプを消灯した状態で、曲を再生できます。CDに記録されている曲以外の情報は再生されません。
CDに記録されているMP3	ランプが点灯した状態でしか、曲を再生できません。CD上にJPG画像が記録されている場合は、MP3ミュージック機能付属のスライドショーとして表示できます。40ページの「画像の表示」を参照してください。

サポートされているメディアタイプは、DVD-ROM、DVD-R、DVD+R、DVD-RW、DVD+RW、CD-RおよびCD-RWなどです。それぞれのディスクが再生可能かどうかは、録音時の条件が影響します。

DVDの再生

1. プロジェクタまたはリモコンの [DVDイジェクト] ▲ ボタンを押して、トレイを開きます。
2. トレイにDVDをセットします。



3. [DVDイジェクト] ▲ ボタンをもう一度押してトレイを閉じます。プロジェクタの電源がオフの場合は、電源が入りウォームアップが始まり、その後、自動的にDVDの再生が開始します。
4. DVDメニューが表示されたら、ナビゲーションボタンを押してお好きな項目を選択し、**ok**を押します。
5. 再生を一時停止したり、再開するには [再生/一時停止ボタン] ||► を押します。
6. 再生を停止するには [停止] ■ ボタンを押します。
7. トレイを開けてDVDを取り出すには [イジェクト] ▲ ボタンを押し、その後 [イジェクト] ボタンをもう一回押してトレイを閉じます。

投影画像を調整したい場合は、33ページの「画像モードの変更」を参照してください。



内蔵DVDプレーヤとすべてのDVDにはDVDリージョンコードが組み込まれています。DVDを再生するには、両方のコードが一致しなければなりません。DVDのコードがプレーヤのコードと一致しなければ、DVDは再生されず、プロジェクタにエラーメッセージが表示されます。

さまざまな再生オプションの使用

内蔵DVDプレーヤにはDVDの再生を制御するための機能がいくつか備わっています。

目的	使用するボタン
一時停止・再生	再生/一時停止 II▶ ボタン
レジューム・再生	再生/一時停止 II▶ ボタン
次のシーン (チャプタ) にジャンプ	次へ ▶▶ ボタン
現在のシーン (チャプタ) の最初にジャンプ	前へ ◀◀ ボタン
前のシーン (チャプタ) にジャンプ	前へ ◀◀ ボタンを2回押します。
スロー再生	再生/一時停止 II▶ ボタンを押して一時停止し、次に、右 ▶ ボタンを1回または数回押してスロー再生の速さを調整します。スロー再生を中止するには、再生/一時停止ボタンを押します。
コマ単位の再生	再生/一時停止 II▶ ボタンを押して一時停止し、コマを進める場合は、次へ ▶▶ ボタン、コマを戻す場合は前へ ◀◀ ボタンを押します。コマ単位の再生を中止するには、再生/一時停止ボタンを押します。
早送り再生	再生速度を上げるには右 ▶ ボタンを1回または数回押します。早送り再生を中止するには、再生/一時停止ボタンを押します。
戻し再生 (ゆっくり、普通、高速)	再生/一時停止 II▶ ボタンを押して一時停止し、左 ◀ ボタンを1回または数回押します。戻し再生を中止するには、再生/一時停止ボタンを押します。
画像の一時停止、ミュート、非表示	hide ボタン。ショーを再開するには、任意のボタンを押します。

DVDメニューを開く

DVDの多くには、表示オプションを選択するためのメニューが用意されています。

1. プロジェクトまたはリモコンの**DVDメニュー**ボタンを押します。
2. ナビゲーションボタンを押してお好きな項目を選択し、**ok**を押します。

画像の表示

DVDプレーヤーに互換性のある映像ディスクを挿入して、スライドショーとして画像を表示することができます。

1. プロジェクタまたはリモコンの [DVDイジェクト] ▲ ボタンを押して、トレイを開きます。
2. トレイに映像ディスクをセットします。
3. [DVDイジェクト] ▲ ボタンをもう一度押してトレイを閉じます。プロジェクタの電源がオフの場合は、電源が入りウォームアップが始まります。その後1度に1枚ずつ画像が表示されます。
4. 目的に応じ、以下の表に示すボタンを押してスライドショーを操作します。
5. [DVDイジェクト] ▲ ボタンを押して、トレイを空けてディスクを取り出し、イジェクトボタンをもう一度押してトレイを閉じます。

目的	使用するボタン
次の画像にスキップ	次へ ► ボタン
前の画像にスキップ	前へ ◀ ボタン
ショーの一時停止	再生/一時停止 ► ボタン
ショーのレジューム	再生/一時停止 ► ボタン
画像の一時停止、非表示	hideボタン。ショーを再開するには、任意のボタンを押します。
画像リストの表示	停止 ■ ボタンまたは DVDメニューボタン。上 ▲、下 ▼、左 ◀、右 ▶ ボタンを押して画像を選択し、okボタンを押して画像を表示して、スライドショーを続けます。



映像ディスクに画像のほかに互換性のあるサウンドトラックが含まれる場合、スライドショーの最中にDVDプレーヤーでサウンドトラックを再生することができます。hide ボタンを押すと、画像だけでなくサウンドもオフになります。

オーディオCDの再生

1. プロジェクタの準備:
 - スクリーンで曲目リストを見たい場合は、プロジェクタの電源をオンにします。
 - 標準の音楽CDを再生したいが、再生中はランプを消灯させておきたい場合、プロジェクタの電源をオフにします。

2. プロジェクタまたはリモコンの [DVDイジェクト] ▲ ボタンを押して、トレイを開きます。
3. トレイにCDをセットします。
4. [DVDイジェクト] ▲ ボタンをもう一度押してトレイを閉じます。
プロジェクタは内蔵DVDプレーヤをアクティブソースとして自動的に選択し、最初のトラックから再生を開始します。ランプが点灯している場合、プロジェクタはCD上の曲目リストを表示します。
5. 以下の表に示すボタンを押して再生する曲を操作します。ランプが消灯している場合、一部の操作は行うことができません。
6. [DVDイジェクト] ▲ ボタンを押して、トレイを空けてCDを取り出し、イジェクトボタンをもう一度押してトレイを閉じます。

目的	使用するボタン
リスト内の曲を再生する	上 ▲ または下 ▼ ボタンを押して好きな曲を選択し、okを押します。
次の曲にスキップ	次へ ► ボタン
現在の曲の最初にスキップ	前へ ◀ ボタン
前の曲にスキップ	前へ ◀ ボタンを2回押します。
曲の一時停止	再生/一時停止 ► ボタン
再生の再開	再生/一時停止 ► ボタン
再生停止	停止 ■ ボタン
再生を停止し、トラック1に戻る	停止 ■ ボタンを2回押します。
サウンドのミュート	ミュートボタン
曲目リストを非表示、曲を一時停止	hideボタン。再開するには、任意のボタンを押します。
高速再生	右 ► を1回または数回。[再生/一時停止] を押すと、通常の速度で再生されます。
早戻し再生	左 ◀ を1回または数回。[再生/一時停止] を押すと、通常の速度で再生されます。

ビデオの表示

この章では、プロジェクタに接続した外部ソースからのビデオを表示する方法について説明します。内蔵DVDプレーヤの使用方法については、前の章を参照してください。

ビデオソースの表示

1. ビデオ機器がプロジェクタに接続され、電源がオンになっていることを確認します。19ページの「ビデオソースの接続」を参照してください。
2. プロジェクタの設定が終わり、電源が入り、調整が済んでいることを確認します。31ページの「基本調整」を参照してください。
3. プロジェクタまたはリモコンの **source** ボタンを1回または数回押して、ビデオ機器が接続されている入力ポートを選択します。
4. ビデオ機器の操作パネルを使用してショーを開始し、ショーを操作します。

投影画像を調整したい場合は、33ページの「画像モードの変更」を参照してください。

画像の非表示または表示

1. 画像を非表示にしてプロジェクタのスピーカをオフにするには、プロジェクタまたはリモコンの **hide** ボタンを押します。この操作を行ってもビデオソースには影響がなく、ビデオの再生はこの間も行われています。
2. 画像をもう一度表示して、プロジェクタのスピーカをオンにするには、任意のボタンを押します。

コンピュータの画面の表示

1. コンピュータがプロジェクタに接続され、電源がオンになっていることを確認します。28ページの「コンピュータの接続」を参照してください。
2. プロジェクタの設定が終わり、電源が入り、調整が済んでいることを確認します。31ページの「基本調整」を参照してください。

3. プロジェクタまたはリモコンの**source**ボタンを1回または数回押して、DVIポートを選択します。
4. コンピュータの画面がプロジェクタに表示されない場合は、コンピュータのビデオ出力ポートを手動でオンにする必要があります。例えば、一部のコンピュータでは、Fn+F4 または Fn+F5 などのキーを組み合わせ、この操作を行います。コンピュータに付属のマニュアルを参照してください。

投影画像を調整したい場合は、33ページの「画像モードの変更」を参照してください。

プロジェクトの調整

画像とサウンドの調整

画像の調整

オンスクリーンメニューには、画像を細かく調整するためのさまざまな設定が用意されています。

1. **menu**を押して、**画像**を選択します。
2. 必要に応じて画像調整項目を変更します。

画像メニューでは、輝度、コントラスト、画像の形、また画像モードのカスタマイズなど、さまざまなオプションを設定できます。

すべての画像メニューの説明については、47ページの「画像メニュー」を参照してください。



オンスクリーンメニューや調整を終了するには、**menu**ボタンを押します。

サウンドの調整

1. **menu**を押して、**サウンド**を選択します。
2. サウンド調整を設定します。

サウンドメニューでは、ミュート、音量、スピーカの動作などのサウンド設定を調整できます。

すべてのオーディオメニューの説明については、49ページの「サウンドメニュー」を参照してください。

プロジェクトのセットアップの調整

1. **menu**を押して、**セットアップ**を選択します。
2. 必要に応じてセットアップ項目を設定します。

セットアップメニューでは、メニューの言語、プロジェクトの位置、メニューのタイムアウトなどを選択できます。

すべてのセットアップ項目の説明については、49ページの「セットアップメニュー」を参照してください。

オンスクリーンメニューの使用

オンスクリーンメニューを使用して設定を変更する

オンスクリーンメニューの設定は、プロジェクトまたはリモコンのボタンを使って変更できます。

1. プロジェクトまたはリモコンの**menu**を押します。オンスクリーンメニューが表示されます。
2. 上 ▲ または下 ▼ ボタンを押して目的のメニューアイコンを強調表示し、右 ► を押してそのメニューまで移動します。
3. 上 ▲ または下 ▼ ボタンを押してその設定を強調表示し、**ok**を押して設定の調整を行います。
4. 左 ◀ または右 ▶ を押すか、上 ▲ または下 ▼ ボタンを押して、目的の設定を変更します。
5. **ok**を押してメニューに戻ります。
6. 別のメニューに移動するには、左 ◀ ボタンを押してからメニューを選択します。
7. オンスクリーンメニューを閉じるには、**menu**を押します。

一定時間操作しないでいると、オンスクリーンメニューは自動的に閉じます。オンスクリーンメニューが閉じるまでの時間を変更するには、**menu**を押して、**セットアップ > メニューのタイムアウト**の順に選択します。



オンスクリーンメニューや調整を終了するには、**menu**ボタンを押します。

入カメニュー

説明図については、12ページの「バックパネル」を参照してください。

入カメニュー

内蔵DVD	内蔵DVDプレーヤからの映像を表示します。
コンポーネント	コンポーネントビデオポート (YPbPr) に接続されたソースを表示します。
Sビデオ	Sビデオポートに接続されたソースを表示します。
コンポジット	コンポジットビデオポートに接続されたソースを表示します。
DVI	DVIポートに接続されたソースを表示します。

画像メニュー

画像調整メニューの一部は特定の入力ポートが使用されているときのみ使用可能です。使用できない項目はオンスクリーンメニューでグレーに表示されます。

画像メニュー

カラー設定...	画像とカラーを調整します。
輝度	画像を明るくしたり暗くしたりします。
コントラスト	画像の明るい部分と暗い部分の差を設定します。
鮮明度	画像の鮮明度を調整します。
彩度	色の量を調整します。
色合い	色を赤または緑の方向にずらします。
カラースペース	コンポーネント入力の一部で、入力ソースが使用しているカラー規格のタイプを選択します。
カラー設定のリセット	これらのカラー設定をデフォルトの設定に戻します。
形の設定...	画像の形を調整します。
キーストーン	画像のゆがみを補正します。プロジェクトの位置がスクリーンに対して高すぎたり低すぎたりする場合は、この補正を行います。
キーストーンのリセット	キーストーン補正を0 (補正なし) にリセットします。

画像メニュー (続き)

ワイドスクリーン入力	ワイドスクリーン入力対応機器を使用中かどうかを設定し、それに応じて画像の高さを調整します。
VGA設定...	コンピュータ入力の設定を調整します。
自動同期	プロジェクトを入力信号に再同期させます。信号の変化に応じた補正が可能です。
周波数	コンピュータに応じてプロジェクトのタイミングを調整します。
トラッキング	コンピュータに応じてプロジェクトのフェーズを調整します。
垂直オフセット	画像を投影領域内で上下に移動します。
水平オフセット	画像を投影領域内で左右に移動します。
画像モード	カラーおよび画像の設定をさまざまな表示条件に対してプリセットされている値の1つに合わせます。各入力ソースまたは表示環境に応じて、異なる画像モードを使用することができます。また、画像モードはカスタマイズすることも可能です。
画像モードのカスタマイズ...	現在の画像モードに関連する設定を変更します。
画像補正	画像のカラー、明るさ、その他の特性を細かく調整します。
色温度	色を赤または青の方向にずらします。
拡大	<p>スクリーンへの画像の合わせ方を以下の中から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 自動調整: 画像を拡大せずに、自動的にスクリーンサイズに合わせます。 ■ 1:1: 画像の1ドットを投影画像の1ドットに対応させて表示します。 ■ 縮小: 標準的な形の画像をワイドスクリーンサイズに合わせます。
ピクチャシフト	投影エリア内で画像を動かします。ワイドスクリーンの映画など、ご覧になっている画像が投影エリア全体よりも小さい場合に便利です。
ピクチャシフトのリセット	ピクチャシフトを0 (中央) にリセットします。
この画像モードをリセット	現在の画像モードをデフォルト設定に戻します。

サウンドメニュー

サウンドメニュー

ミュート	音声出力をオフにします。
音量	スピーカの音の大きさを調整します。
サブウーファ	スピーカの音の大きさを調整します。
内蔵スピーカー	内蔵スピーカのオン・オフを設定します。
サウンド設定のリセット	サウンド設定をデフォルト値に戻します。

セットアップメニュー

セットアップメニュー

言語	オンスクリーンメニューで使用する言語を選択します。
メニューのタイムアウト	オンスクリーンメニューを閉じるまでの入力待ち時間 (秒数) を設定します。
スライド間隔	次の画像に移るまで、画像を表示しておく時間 (秒数) を設定します。
DVI互換性	DVIポートの構成を行います。DVIポートに接続されたコンピュータが常に低解像度の画像を投影する場合は、 VGAのみ を使用します。
ランプ時間のリセット	新しいランプに交換したら、使用時間をリセットします。
すべての設定のリセット	すべてのメニュー設定をデフォルト値に戻します。

ヘルプメニュー

ヘルプ

	プロジェクトの情報とステータスを表示します。
診断テスト...	プロジェクトとリモコンの動作をチェックするためのテストを表示します。

プロジェクトのメンテナンス

プロジェクトのステータスを見る

プロジェクトのステータスを見るには、プロジェクトまたはリモコンの**menu**ボタンを押して**ヘルプ**を表示します。画面にプロジェクトの情報とステータスが表示されます。

プロジェクトのレンズのクリーニング

以下の注意事項にしたがって、プロジェクトの前面レンズを清掃してください。レンズ内側の面はどれも清掃することはできません。

- レンズ表面のキズや損傷を最も軽くするには、脱イオン処理したきれいな乾いた空気
でレンズ表面に付着した埃を吹き飛ばしてください。
- この方法で不十分な場合は、次の方法を使ってください。
 - a. きれいな乾いた布で、レンズを同一方向に拭きます。レンズ表面を往復させて拭かないようにしてください。
 - b. 布が汚れていたり、レンズに汚れが付いた場合は、布を洗ってください。布を洗ってもきれいにならない場合、あるいは生地が傷んでいる場合は、別の布を使ってください。



クリーニングには以下のような特別な注意が必要です。

- レンズ表面に液体やクリーナーを直接吹き付けることは絶対にしないでください。クリーナーがレンズを損傷するおそれがあります。
 - 清掃用の布を洗う際に柔軟剤を使用したり、乾かすときに柔軟シートを使用したりすることは避けてください。布に付いた化学物質がレンズの表面を損傷するおそれがあります。
 - 清掃用の布がレンズに触れたままの状態で長時間保管しないでください。布の染料がレンズに移るおそれがあります。布をケースなどに入れないで放置しておく
と汚れるおそれがあります。
-

ランプモジュールの交換

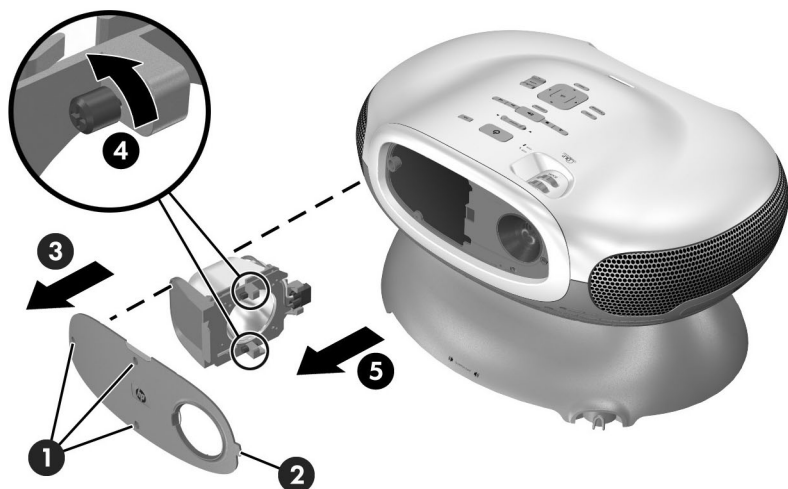
プロジェクタを長時間使用していると、プロジェクタのランプの明るさが少しずつ減少するとともに、ランプが破損しやすくなります。新しいランプに交換すれば、出荷時のようにいつでも真新しい明るさを取り戻すことができます。ランプ警告メッセージが表示された場合は、ランプを交換するようにお勧めします。



ランプモジュールを交換する際は、特別な注意が必要です。

- ケガを避けるため、ランプモジュールを取り外す際は割れたガラスがないかどうか注意してください。ランプが割れている場合は、ガラスの破片が飛び散る恐れがあります。修理についてはHPまでご連絡ください。
- ランプには少量の水銀が含まれています。万一、ランプが破損した場合は、破損が起きた部屋を十分に換気してください。ランプの廃棄は、環境汚染防止のために法律で規制されている場合があります。廃棄またはリサイクルの方法については、各自治体または電子工業会 <http://www.eiae.org> にお問い合わせください。
- ランプ部品は非常に高温で動作するため、ランプモジュールは30分ほど待ってから取り外してください。

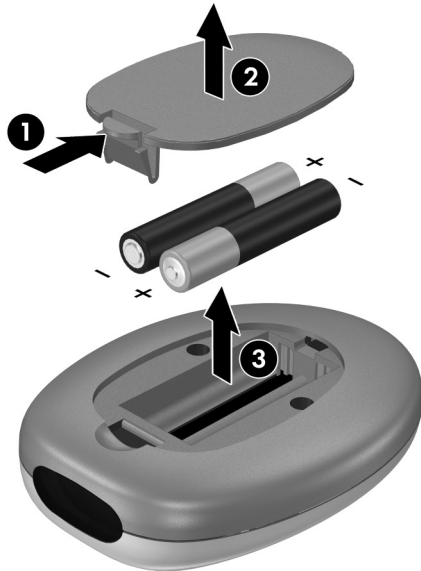
1. プロジェクタをオフにし、約30分間冷却します。
2. 電源コードを取り外します。
3. フロントカバーの3本のねじを緩め①、右端のタブ②がプロジェクタから外れるまでフロントカバーを引き出します③。
4. ランプモジュールの2本のねじを緩め④、モジュールを引き出します⑤。



5. 新しいランプモジュールをプロジェクタに挿入し、2本のネジを締めます。
6. フロントカバーのタブをプロジェクタのスロットにはめ込み、カバーを閉じます。
7. カバーをとめていたねじを締めます
8. プロジェクタの電源をオンにします。ウォームアップ時間が過ぎてもランプが点灯しない場合は、ランプを取り付け直してください。
9. **menu**を押して、**セットアップ>ランプ時間のリセット**の順に選択し、**ok**を押します。

リモコンの電池を交換する

1. リモコンの裏側のタブを押し込み①、電池カバー②を開けると電池が現れます。
2. 古い電池を取り出し、新しい単4電池2個を入れます③。
3. 電池カバーを取り付けます。



古い電池を廃棄するときは、電池の廃棄またはリサイクルに関する規制について、自治体または廃棄業者にお問い合わせください。

問題の解決

トラブルシューティングのヒント

プロジェクトに問題が生じた場合は、その状況に最も近い例を以下の中から探し、本章の該当するセクションをご覧ください。

- 「警告ライトの問題」 55ページ
- 「始動時の問題」 56ページ
- 「画像の問題」 56ページ
- 「サウンドの問題」 60ページ
- 「停止の問題」 61ページ
- 「リモコンの問題」 62ページ



記載されている方法で問題が解決しない場合は、<http://www.hp.com/support> の追加情報もご覧ください。HPへの問い合わせ方法は、第7章「サポートと保証」を参照してください。

警告ライトの問題

警告ライトが両方とも点滅している場合:

- プロジェクトの電源が切れたあと、プロジェクトが冷えるまで待ちます。プロジェクトを再始動させたあとでこのような状況になった場合、内蔵のコンポーネントに障害があります。HPにご連絡ください。

赤い温度ライトが点灯または点滅している場合:

- プロジェクトの電源が切れたあと、プロジェクトが冷えるまで待ちます。プロジェクトの換気口の周囲に換気口を塞いでいるものがないか確認し、埃や障害物があれば取り除きます。また、高温の元となる熱源があれば部屋から取り除きます。温度と湿気制限を守ってください (69ページの「仕様」を参照)。プロジェクトを再始動させたあとで警告ライトが点灯または点滅する場合は、HPにご連絡ください。

赤いランプライトが点灯または点滅している場合:

- ❑ プロジェクタの電源が切れたあと、プロジェクタが冷えるまで待ちます。プロジェクタを再始動させたあとで警告ライトが点灯または点滅する場合は、新しいランプと交換してください。新しいランプモジュールを取り付けたあとでこのような状況が発生した場合は、ランプモジュールをいったん取り外し、取り付けなおしてください。それでもまだ問題が解決しない場合は、HPまでお問い合わせください。

赤いランプライトがすばやく点滅している場合:

- ❑ プロジェクタ正面のランプ周囲のカバーが正しく取り付けられ、ランプに密着していることを確認します。カバー右側のタブとカバー左側のねじも確認します。

始動時の問題

ライトが点灯しない、または音がしない場合:

- ❑ 電源ケーブルがプロジェクタにしっかり接続されており、ケーブルのもう一方の端が通電している電源コンセントに差し込まれていることを確認します。
- ❑ DVD トレイにディスクをセットしてもプロジェクタの電源がオンにならなかった場合は、ディスクが認識されていません。別のディスクに替えてください。
- ❑ 電源ボタンをもう一度押します。
- ❑ 電源コードをコンセントから取り外し、15 秒ほどしたら差し込み、もう一度電源ボタンを押します。

画像の問題

空白の画面に「待機中」というメッセージが表示される場合:

- ❑ 正しいソース名が選択されるまで、プロジェクタまたはリモコンの **source** ボタンを1回または数回押します。
- ❑ 外部ソースの電源がオンで、プロジェクタに接続されていることを確認します。
- ❑ コンピュータ接続の場合は、ノートブックコンピュータの外部ビデオポートがオンになっていることを確認します。コンピュータのマニュアルを参照してください。一部のノートブックでは、Fn+F4 または Fn+F5 ファンクションキーを押して外部ビデオポートをオンにする必要があります。

正しくない入力ソースが表示される場合:

- ❑ プロジェクタまたはリモコンの **source** ボタンを1回または数回押して、別のアクティブな入力ソースを選択します。

画像の焦点が合っていない場合:

- ❑ レンズカバーが外れていることを確認します。
- ❑ オンスクリーンメニューを表示しながら、フォーカシングを調整します (画像の大きさは変化しないはずですが、変化する場合はフォーカスでなくズームを調整しています)。
- ❑ 投影スクリーンがプロジェクタから1～10 mの距離にあることを確認します。
- ❑ 投影レンズを見て、汚れていたら清掃します。
- ❑ コンピュータ接続の場合は、コンピュータの表示解像度を800×600ピクセルに設定します。コンピュータでマルチモニタに設定している場合は、プロジェクタ用のモニタの解像度を調整します。
- ❑ コンピュータがSビデオポートに接続されている場合、コンピュータの画面で見るほど画像の解像度は高くできません。

画像が小さすぎるか大きすぎる場合:

- ❑ プロジェクタ上部にあるズームリングを調整します。
- ❑ プロジェクタをスクリーンに近く、または遠くに動かします。
- ❑ プロジェクタまたはリモコンで、**picture mode**ボタンを1回または数回押して、その画像に適したサイズに調整する画像モードがないかどうか確認します。
- ❑ **menu**を押して、**画像 > 画像モードのカスタマイズ > 拡大**の順に選択します。別の設定を試してみます。
- ❑ 使用中のビデオ機器からの出力がワイドスクリーンの場合、**menu**を押して、**画像 > 形の設定**の順に選択し、**ワイドスクリーン入力**を**あり**に設定します。それ以外の場合は、**なし**に設定します。

画像に台形歪みがある場合:

- ❑ プロジェクタの位置をできるだけスクリーンの中央、スクリーンの下端より下になるように調整します。
- ❑ プロジェクタまたはリモコンで、画像の両端が垂直になるまで**keystone**ボタンを押します。

画像が引き伸ばされている場合:

- ❑ プロジェクタまたはリモコンで、画像モードボタンを1回または数回押して、その画像に適したサイズに調整する画像モードがどれかを確認します。
- ❑ **menu**を押して、**画像 > 画像モードのカスタマイズ > 拡大**の順に選択します。別の設定を試してみます。
- ❑ 使用中のビデオ機器からの出力がワイドスクリーンの場合、**menu**を押して、**画像 > 形の設定**の順に選択し、**ワイドスクリーン入力**を**あり**に設定します。それ以外の場合は、**なし**に設定します。

投影画像の色がわずかに違って見える場合:

- ❑ **menu**を押して**画像>カラー設定**の順に選択し、必要に応じてカラー設定を調整します。
- ❑ **menu**を押して、**画像>カラー設定>カラースペース**の順に選択します。別の設定を試してみます。
- ❑ **menu**を押して、**ヘルプ>診断テスト**の順に選択し、カラーテストを実行します。

投影画像の色がまったく違って見える場合:

- ❑ ケーブルコネクタのピンが曲がったり折れたりしていないことを確認します。
- ❑ **menu**を押して、**画像>カラー設定>カラースペース**の順に選択します。別の設定を試してみます。
- ❑ **menu**を押して、**ヘルプ>診断テスト**の順に選択し、カラーテストを実行します。
- ❑ **menu**を押して、**画像>カラー設定>カラー設定のリセット**の順に選択し、**ok**を押します。
- ❑ **menu**を押して、**セットアップ>すべての設定のリセット**の順に選択し、**ok**を押します。

画像がクリアではない場合 (ゴーストイメージ、不鮮明、画質が悪い):

- ❑ 使用中のビデオケーブルが定格75オームの同軸ケーブルであることを確認します。これ以外のケーブルやインピーダンスでは、画質が劣化するおそれがあります。
- ❑ ビデオソースとプロジェクタを接続するビデオケーブルの品質が比較的高い可能性があります (特にケーブルの長さが3m以上の場合)。ビデオソースとプロジェクタ間の距離が長い場合は、画質の劣化や画像の消失を避けるため、低損失ケーブルを推奨します。

DVIポートが選択されているのにDVIソースが表示されない場合:

- ❑ **menu**を押して、**セットアップ>DVIの互換性**の順に選択し、**標準DVI**を選択します。

画像設定のいくつかが完全に間違っているようにみえるがこれを修正できない場合:

- ❑ **menu**を押して、**画像>カラー設定>カラー設定のリセット**の順に選択し、**ok**を押します。
- ❑ **menu**を押して、**セットアップ>すべての設定のリセット**の順に選択し、**ok**を押します。

コンピュータ接続で、表示画像がスクロールしたり切れたりする場合:

- ❑ menuを押して、**画像 > VGA設定 > 自動同期**の順に選択し、**ok**を押します。
- ❑ すべてのデバイスの電源をオフにします。その後、まずプロジェクタの電源をオンにし、次にノートブックまたはデスクトップコンピュータの電源をオンにします。
- ❑ 上記の手順で表示画像が直らなかつた場合、ノートブックまたはデスクトップコンピュータの解像度を800×600ピクセルに調整します。コンピュータでマルチモニタに設定している場合は、プロジェクタ用のモニタの解像度を調整します。

コンピュータ接続で画像が点滅したり不安定になったりする場合:

- ❑ menuを押して、**画像 > VGA設定 > 自動同期**の順に選択し、**ok**を押します。
- ❑ menuを押して、**画像 > VGA設定**の順に選択し、**周波数**または**トラッキング**を調整します。

コンピュータ画面から画像が消える場合:

- ❑ ノートブックコンピュータでは、外部VGAポートと内蔵画面の両方をオンにできる場合があります。コンピュータのマニュアルを参照してください。

コンピュータ画面からの文字列や行が乱れたり、揃っていない場合:

- ❑ フォーカスの調整を確認します。
- ❑ menuを押して、**画像 > 形の設定 > キーストーンのリセット**の順に選択し、**ok**を押します。

コンピュータ画面が低解像度で投影されている場合:

- ❑ menuを押して、**セットアップ > DVIの互換性**の順に選択し、**VGAのみ**を選択します。この設定は標準DVI機器には適用できないのでご注意ください。

DVDプレーヤの問題

エラーメッセージが表示される場合:

- ❑ ディスクのラベルを上にしてトレイにセットしていることを確認します。
- ❑ ディスクに傷やその他の問題がないか確認します。ディスクをクリーニングします。別のディスクで試してみます。
- ❑ セットしたディスクのタイプが内蔵DVDプレーヤでサポートされていない可能性があります。そのようなタイプのディスクは再生できません。
- ❑ DVDの場合、リージョンコードを確認します。たいていのDVDは中央の穴の近くにリージョンコードが刻印されています。プロジェクタで正しく再生できるDVDと、問題のDVDのリージョンコードを比べてみてください。プロジェクタが再生できるのは1つの地域のDVDのみです。

トレイにセットしたディスクが自動的に再生されない場合:

- ❑ ディスクが自動的に再生されるのは、トレイを閉じた時点のみです。ディスクがトレイにすでにセットされている場合、再生を開始するには[再生/一時停止]ボタンを押します。
- ❑ プロジェクタの電源がオフで、内蔵DVDプレーヤでサポートされないディスクをセットした場合、プロジェクタはまったく動作しません。

CDの一部の画像が表示されない場合:

- ❑ (画素数が非常に多い) 高解像度の画像によっては表示されないものがあります。このようなときは、それより低い解像度の標準JPG形式に変換してください。

DVDメニューを表示できない場合:

- ❑ **DVDメニュー**ボタンを押します。
- ❑ セットしたDVDに元々メニューがありません。

スクリーンに \odot アイコンが表示される場合:

- ❑ 現状のディスクまたはDVDプレーヤでサポートされないボタンを押しました。このボタンは無視されます。

サウンドの問題

プロジェクタから音がまったく出ない場合:

- ❑ 外部ソースを再生中の場合、ソース機器とプロジェクタのオーディオ入力がオーディオケーブルで確実に接続されていることを確認します。
- ❑ ヘッドホンがヘッドホンジャックに差し込まれていないことを確認します。ヘッドホンを接続すると内蔵スピーカから音声は出力されなくなります。
- ❑ **menu**を押して、**サウンド**を選択し、**ミュート**がオフで、**音量**が正しいことを確認します。
- ❑ **menu**を押して、**サウンド > 内蔵スピーカ**の順に選択し、スピーカがオンになっていることを確認します。
- ❑ 内蔵DVDプレーヤでDTSサウンド対応のDVDを再生中の場合、**DVDメニュー**を押して、DTSサウンドをオフにし、ステレオまたはDolbyサウンドをオンにします。DTSサウンドはプロジェクタのデジタルオーディオ出力に接続したDTS対応サウンドシステムでのみ再生できます。
- ❑ **menu**を押して、**ヘルプ > 診断テスト**の順に選択し、サウンドテストを実行します。
- ❑ ビデオデッキ、ビデオカメラ、コンピュータなどのソース機器のミュートや音量の設定が正しいことを確認します。

外部サウンドシステムから音がまったく出ない場合:

- ❑ 外部ソースを再生中の場合、ソース機器とサウンドシステムがオーディオケーブルで確実に接続されていることを確認します。プロジェクトのデジタルオーディオ出力は内蔵DVDプレーヤの再生時にしか機能しません。
- ❑ 内蔵DVDプレーヤを再生中の場合、プロジェクトとサウンドシステムが正しいケーブルで接続されていることを確認します。デジタルオーディオポート間はデジタルオーディオケーブル、ステレオオーディオポート間は標準のオーディオケーブルを使用します。
- ❑ **menu**を押して、**サウンド**を選択し、**ミュート**がオフになっていることを確認します。音量コントロールはデジタルオーディオ出力とステレオオーディオ出力に影響しません。
- ❑ 内蔵DVDプレーヤでDTSサウンド対応のDVDを再生中の場合、**DVDメニュー**を押して、DTSサウンドをオフにし、ステレオまたはDolbyサウンドをオンにします。DTSサウンドはプロジェクトのデジタルオーディオ出力に接続したDTS対応サウンドシステムでのみ再生できます。

プロジェクトのスピーカが外部オーディオシステムと干渉する場合:

- ❑ **メニュー**を押して、**サウンド > 内蔵スピーカ**の順に選択して、スピーカをオフにします。

停止の問題

プロジェクトがすべての操作に応答しない場合:

- ❑ 可能な場合は、プロジェクトの電源をオフにし、電源コードを外します。15 秒以上経過したら電源コードを接続して電源をオンにします。

ショーの間にランプが消える場合:

- ❑ 小さな電源サージのためにランプが消える場合があります。これは正常な動作です。数分ほど待ってからプロジェクトをオンにしてください。
- ❑ 赤い警告ライトが点灯または点滅している場合は、55 ページの「警告ライトの問題」を参照してください。

ランプが切れるか、破裂音ができる場合:

- ❑ ランプが切れて破裂音が聞こえた場合、ランプモジュールを交換するまでプロジェクトの電源は入りません。
- ❑ ランプが割れているとガラス破片の処理が必要になる場合があるため、修理についてHPまでお問い合わせください。

リモコンの問題

リモコンが動作しない場合:

- ❑ プロジェクタの前面または背面にあるリモコンの受光部が何かで覆われていないことを確認します。プロジェクタから9 m以内の距離に近づいてください。
- ❑ リモコンをスクリーンまたはプロジェクタの前面または背面に向けます。
- ❑ **menu**を押して、**ヘルプ > 診断テスト**の順に選択し、リモコンのテストを実行します。
- ❑ リモコンの電池を交換します。

プロジェクタのテスト

オンスクリーンメニューにある診断テストを使って、プロジェクタとリモコンの動作が正しいかどうかを検証できます。

1. **menu**を押して、**ヘルプ > 診断テスト**の順に選択します。
2. テストを選択し、**ok**を押します。
3. 画面に表示される指示にしたがいます。

サポートと保証

サポート

HPサポートへのお問い合わせ

HPはHPデジタルプロジェクタに関する使用方法およびトラブル解決についてのテクニカルサポートを提供しています。ご利用になれるサポートは、製品・国・地域・言語によって異なります。HPサポートは、以下の順序でご利用いただくと最も効果的です。

ステップ1: HPデジタルプロジェクタのマニュアル

プロジェクタに同梱のユーザーズマニュアルとセットアップガイドです。過去にお客様からご報告いただいたトラブルの多くは、このマニュアルに対処方法が記載されています。これらのマニュアルは主な言語に対応しており、プロジェクタに同梱のCDに収録されています。

ステップ2: HPオンラインサポート

HPオンラインサポートでは、サポート情報・お役立ち情報・最新アップデート情報を24時間いつでも無料でご利用いただけます。このサービスはインターネット上のWebサイト <http://www.hp.com/support> にアクセスしてご利用ください。

ステップ3: HP電話サポート

HP電話サポートは、本デジタルプロジェクタの所有者に限り、無料でご利用いただけます(電話料金はお客さまの負担になります)。電話サポートはHPによりHP製品が販売される国または地域ならどこでもご利用いただけます。HPオンラインサポートはいつでも無料でご利用いただけます(上記「ステップ2: HPオンラインサポート」をご参照ください)。

電話番号一覧については以下の表を参照してください。最新の電話番号については、<http://www.hp.com/support> をご覧ください。お電話の際は、プロジェクタのモデルとシリアル番号をご用意ください。

アメリカ

アルゼンチン (ブエノスアイレス):
(54) 11-4778-8380

アルゼンチン (その他の地域): 0-810-555-5520

ブラジル (サンパウロ): 11-3747-7799

ブラジル (その他の地域): 0800-15-7751

カナダ (Missauga): 905-206-4663

カナダ (その他の地域): 1-800-474-6836

チリ: 800-360-999

コロンビア: 01-800-51-HP-INVENT

コスタリカ: 0-800-011-4114 + 1-800-711-2884

エクアドル (Andinatel): 999-119 +
1-800-711-2884

エクアドル (Pacifitel): 1-800-225-528 +
1-800-711-2884

ガテマラ: 1-800-999-5105

メキシコ (メキシコシティ): (55) 5258-9922

メキシコ (その他の地域): 01-800-472-6684

パナマ: 001-800-711-2884

ペルー: 0-800-10111

ベネズエラ: 0-800-4746-8368

ジャマイカ: 1-800-7112884

ドミニカ共和国: 1-800-711-2884

トリニダードトバゴ: 1-800-711-2884

米国: 1-800-474-6836

ヨーロッパ

オーストリア: +43 (0) 820 87 4417

ベルギー (フランス語): 070 300 004

ベルギー (ドイツ語): 070 300 005

チェコ共和国: +42 (0) 2 61307310

デンマーク: +45 70202845

フィンランド: +358 (0) 203 66 767

フランス: +33 (0) 892 6960 22

ドイツ: +49 (0) 180 5652 180

ギリシャ: + 30 10 6073 603

ハンガリー: +36 (0) 1 382 1111

アイルランド: 1890 923902

イタリア: 848 800 871

ルクセンブルグ (フランス語) 900 40 006

ルクセンブルグ (ドイツ語): 900 40 007

オランダ: 0900 2020 165

ノルウェー: +47 815 62 070

ポーランド: + 48 22 865 98 00

ポルトガル: 808 201 492

ルーマニア: +40 1 315 44 42

ロシア連邦 (モスクワ): +7 095 7973520

ロシア連邦 (サンクトペテルブルグ) + 7 812 346
7997

スロバキア: + 421 2 6820 8080

スペイン: 902 010 059

スウェーデン: + 46 (0) 77 120 4765

スイス: 0848 672 672

ウクライナ: + 7 (380 44) 490-3520

英国: +44 (0) 870 010 4320

中東/アフリカ

アルジェリア: +213 (0) 61 56 45 43

バーレーン: +973 800 728

エジプト: + 20 02 532 5222

イスラエル: + 972 (0) 9 830 4848

モロッコ: +212 224 04747

ナイジェリア: +234 1 3204 999

サウジアラビア: +966 800 897 14440

南アフリカ (南アフリカ共和国): 086 000 1030

南アフリカ (その他の地域): +27-11 258 9301

チュニジア: + 216 1 891 222

トルコ: +90 216 579 7171

アラブ首長国連邦: 800 4910

アジアおよびオーストラリア

オーストラリア: +61 (3) 8877 8000
(国内 (03) 8877 8000)

中国: +86 (21) 3881 4518

香港SAR: +852 2802 4098

インド: 1 600 447737

インドネシア: +62 (21) 350 3408

日本 (国内): 0570 000 511

日本 (国外): +81 3 3335 9800

韓国: +82 1588-3003

マレーシア: 1 800 805 405

ニュージーランド: +64 (9) 356 6640

フィリピン: +63 (2) 867 3551

シンガポール: +65 6272 5300

台湾: +886 0 800 010055

タイ: +66 - (0) 2 353 9000

ベトナム: +84 (0) 8 823 4530

HP修理サービスのお問い合わせ

ご使用のデジタルプロジェクトの修理が必要と判断された場合、HPサポートまでお電話でお問い合わせください。経験豊かなHPサービス技術者がトラブルを診断し、修理の受付を承り、お客様に最適なソリューションとして、HP正規サービスプロバイダまたはHPサービスセンターのどちらかをご案内いたします。保証期間中に限り、保証範囲内での修理は無料となります。保証期間終了後の有料修理については、修理料金の見積もりをさせていただきます。

限定保証

弊社ではお客様にHPデジタルプロジェクトを最大限ご活用いただけるように、最良のサービスを提供することを努めております。この限定保証条項にはデジタルプロジェクトの標準保証が記載されています。

製品名	保証期間
HPデジタルプロジェクト、保証期間は背面ラベルに記載 (この表に記載の項目は除く)。	保証年数はラベルに記載、例: 1YR = 1年、3YR = 3年 部品および修理限定保証
HPデジタルプロジェクト ランプモジュール (プロジェクトの付属品または別売品)	1年または2000使用時間 (短いほうの期間) ハードウェア限定保証
HPデジタルプロジェクトケーブル、リモコン、その他の部品 (プロジェクトの付属品)	プロジェクトと同じ期間 ハードウェア限定保証
HPデジタルプロジェクトケーブル、コード、アダプタ、リモコン (別売品)	1年 ハードウェア限定保証

HPデジタルプロジェクト 限定保証条項

限定保証の範囲

- Hewlett-Packard (以下 HP) は、エンドユーザであるお客様に、弊社製品が上記に定められた期間内に、材質また品質上の瑕疵がないことを保証いたします。この期間は、お客様に本製品をご購入いただいた当日から開始されます。本製品の購入日の証明となる書類は必ず保管しておいてください。
- ソフトウェア製品については、このHP限定保証はプログラミング命令の実行エラーにのみ適用されます。弊社は、HP製品の稼働中に中断や障害がまったく発生しないという保証はいたしません。

3. HP限定保証は、本製品の適切な使用の結果生じた瑕疵のみを対象としており、以下のような場合は適用されません。
 - ☐ 不適切なメンテナンスまたは無許可の改造
 - ☐ 弊社が提供またはサポートしていないソフトウェア、インタフェース、メディア、パーツ、サプライ品
 - ☐ 製品の仕様範囲外の操作
4. 万が一、保証期間内にHP保証の対象となるハードウェア製品に瑕疵の報告を受けた場合、弊社は弊社の判断により瑕疵と認められた製品を修理もしくは交換します。
5. 弊社が、瑕疵の報告を受けてから適切な期間内に、保証対象である当該製品の修理・交換を行えなかった場合は、お客様から製品が返品された時点で、購入代金を全額返金いたします。
6. 弊社には、お客様が瑕疵のある製品を弊社に返送されるまで、修理、交換、返金に依る義務はないものとします。
7. 交換後の製品は、新品または新品と同様で、交換前の製品と同等の性能を持つものとします。
8. 弊社製品には、新品と等しい性能を持つ再生部品またはコンポーネント、または前に付随的に使用された部品が含まれている場合があります。
9. HP限定保証は、保証対象の弊社製品が弊社によって販売されているあらゆる国または地域で有効です。

保証の制限

国、地域の法律で認められる範囲内において、弊社またはその供給元の第三者は、本HP製品に関して、上記以外の保証またはあらゆる種類の条件も、明示的または黙示的保証に限らず、一切いたしません。特に、HPは市場性、品質および特定用途に対する適合性についての黙示的保証または条件の責任を負いません。

責任の制限

1. 国、地域の法律で認められる範囲内において、上記の保証以外に、弊社は一切の責任を負いません。
2. 国、地域の法律で認められる範囲内において、本保証条項で特別に規定された義務を除き、弊社またはその供給元である第三者は、直接的、間接的、特殊、付随的、派生的損害に関して、契約、不法行為、その他の法的制約のいかんにかかわらず、一切の責任を負いません。たとえ、このような損害の可能性について知らされていた場合でも同様です。

準拠法

1. 本保証は、お客様の特定の法的権利に関するもので、国、地域によって規定が異なる場合があります。
2. 本保証条項が国または地域の法律と矛盾する場合、これらの法律と合致させるため、本保証条項に修正を加えるものとします。このような法律では、本保証条項における特定の免責事項と制限によっては、お客様に適用されない場合があります。例えば、米国内の州によっては、海外の国と同様に (カナダの州を含む)、次のような場合があります。
 - ❑ 本保証条項の免責事項と制限は、消費者の法規上の権利の制限から除外される (例: イギリスなど)。
 - ❑ さもなければ、このような免責事項または制限事項を強制する製造元の権利を制限する。
 - ❑ お客様に追加の保証権利を付与し、製造元が放棄できない黙示的保証の期間を明記する、または、黙示的保証期間の制限を認めない。
3. オーストラリアおよびニュージーランドでご購入の場合: 本条項の保証条件は、法律が許容する場合を除き、本HP製品のお客様への販売に適用される強制法規上の権利を排除し、制限し、修正し、追加するものではありません。

この章には、プロジェクタの仕様、安全情報、規制情報を記載します。

仕様

HPでは常に製品の改良に努めており、以下の仕様は変更される可能性があります。最新の仕様については、HP Webサイト <http://www.hp.com/jp> をご覧ください。

プロジェクタの仕様

サイズ	524 × 400 × 320 mm
重量	10.5 kg
解像度	SVGA (800 × 600)
投影方式	DLP
内蔵DVDプレーヤ	互換性: DVDビデオ (Dolby DigitalおよびDolby Pro Logic、DTSはデジタルオーディオ出力にパスされる)、DVD+R/RW、DVD-R/RW、VCD、SVCD、JPGイメージ、MP3オーディオ、CDDA (標準オーディオCD)、CD-R、CD-R/RW、Kodak Picture CD
ビデオコネクタ	Sビデオ (mini-DIN) コンポジットビデオ (RCA) コンポーネントビデオ (RCA×3) DVI-I
オーディオコネクタ	5.1デジタルオーディオ出力 (RCA×1、同軸) ステレオオーディオ出力 (RCA×2) ステレオオーディオ入力 (RCA×2)
その他のコネクタ	サービスポート (修理サービス専用)

プロジェクタの仕様 (続き)

ビデオの互換性	NTSC 3.58 MHzおよび4.43 MHz PAL B, D, G, H, I, M, N SECAM B, D, G, K, K1, L HDTV (480i/p, 575i/p, 720p, 1080i) HDCP対応DVI 最大SXGA対応PCビデオ (DVI-Iコネクタによる)
赤外線受光部	プロジェクタの前面および背面
ランプ	210ワットランプ ランプ平均寿命4000時間 (元の輝度の半分まで) 交換用ランプ: L1731A
光学	投影比 1.7:2.0 (距離/幅) 投影距離 1~10m 128% オフセット (半分の高さに対応) 1.16:1 光学ズーム
ライトエンジン	0.55インチ。12° DDR DMD
オーディオ	合計ピーク電力 60ワット ステレオスピーカ ピーク値15ワット/チャンネル (チャンネルごとに前後にスピーカ1台ずつ使用) サブウーファ ピーク値30ワット
騒音レベル	34dBA未満
垂直角度調整	±10°
垂直キーストーン補正	±20%
電源	100~240 V、50~60 Hz.
環境	稼働時: 温度: 5 ~ 35°C 湿度: 相対湿度 最大80%、結露がないこと 高度: 3,000m、25°Cまで 保管時: 温度: -20 ~ 60°C 湿度: 相対湿度 最大80%、結露がないこと 高度: 12,000 mまで

ビデオモードの互換性

互換性	解像度	リフレッシュレート (Hz)
アナログ		
VGA	640 × 350	70, 85
	640 × 400	85
	640 × 480	60, 66.66, 66.68, 72, 75, 85, 117, 120
	720 × 400	70, 85
SVGA	800 × 600	56, 60, 72, 75, 85, 95
	832 × 624	74.55
XGA	1024 × 768	60, 70, 75, 85, 95
	1152 × 870	75, 75.06
	1280 × 960	75
SXGA	1280 × 1024	60, 75
SXGA+	1400 × 1050	60
デジタル		
VGA	640 × 350	70, 85
	640 × 400	85
	640 × 480	60, 72, 75, 85
	720 × 400	70, 85
SVGA	800 × 600	56, 60, 72, 75, 85
XGA	1024 × 768	60, 70, 75
SXGA	1280 × 1024	60, 75
SXGA+	1400 × 1050	60

安全情報

レーザの安全性

本製品はレーザを用いるDVDプレーヤを搭載しています。目を損傷するおそれがあるため、この装置のカバーを外したり、修理する際は有資格のサービス担当者にお任せください。本書に指示された以外の方法でコントロール機能を使用したり、指定以外の調整、手順を行うと、有害な光線を露出させるおそれがあります。



警告: ドロワーが開いていると可視または非可視レーザ光線が放射されます。目の損傷を避けるため、レーザ光線を直接覗き込まないでください。

レーザに関するデータ

- 2波長半導体レーザ
- 波長DVD: 650 nm
- 波長CD: 780 nm
- 光学出力パワー DVD: 7 mW
- 光学出力パワー CD: 7 mW



LEDの安全性

デジタルプロジェクタとリモコンの赤外線ポートは、国際標準IEC 825-1 (EN60825-1) に基づいて、クラス1 LED機器に分類されています。この機器は無害とされていますが、以下の注意事項を守ることが推奨します。

- 機器の修理が必要な場合は、HPの正規サービスセンターにご依頼ください。
- 機器の調整はいっさい行わないでください。
- LEDの光線を目に直接当てることは避けてください。光線は目に見えないので注意してください。
- 何らかの光学機器を通して赤外線LEDの光線を見ることは避けてください。

水銀の安全性



警告: このデジタルプロジェクタのランプには、少量の水銀が含まれています。万一、ランプが破損した場合は、破損が起きた部屋を十分に換気してください。ランプの廃棄は、環境汚染防止のために法律で規制されている可能性があります。廃棄またはリサイクルの方法については、各自治体または電子工業会 <http://www.eiae.org> にお問い合わせください。

規制情報

この項には、一部地域の規制にデジタルプロジェクタがどのように適合するかを記載します。HPの明示的な承認なしにデジタルプロジェクタを改変した場合、これらの地域でデジタルプロジェクタを使用する権利がなくなるおそれがあります。

Japan

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると受信障害を引き起こすことがあります。

取り扱い説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

製品には、同梱された電源コードをお使い下さい。
同梱された電源コードは、他の製品では使用出来ません。

国際

規制に関する識別のため、製品には規制モデル番号が付与されています。お使いの製品の規制モデル番号は、「declaration of conformity」に記載されています。この規制番号は、販売上の名称や製品番号とは異なります。

Declaration of conformity

According to ISO/IEC Guide 22 and EN 45014

Manufacturer's name: Hewlett Packard Company
Manufacturer's address: Hewlett Packard Company
 Digital Projection & Imaging
 1000 NE Circle Blvd.
 Corvallis, OR 97330-4239

Declares, that the product (s) :

Product name: Instant Cinema**Model number:** ep9010 series**Regulatory model:** CRVSB-04ZO**Conforms to the following product specifications:****Safety:** IEC 60950:1999/ EN 60950:2000IEC 60825-1:1993 +A1 / EN 60825-1:1994 +A11 Class 1 LED
GB4943-1995**EMC:** EN 55022: 1998 Class B [1]

CISPR 24:1997 / EN 55024: 1998

IEC 61000-3-2:1995 / EN 61000-3-2:2000

IEC 61000-3-3:1994 / EN 61000-3-3:1995+A1:2001

GB9254-1998

FCC Title 47 CFR, Part 15 Class B/ANSI C63.4:1992

AS/NZS 3548:1995 Rules and Regulations of Class B

Supplementary information:

The product herewith complies with the requirements of following Directives and carries the CE marking accordingly:

- Low Voltage Directive: 73/23/EEC

- EMC Directive: 89/336/EEC

[1] The product was tested in a typical configuration with Hewlett Packard Personal Computer peripherals.

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Corvallis, Oregon, July 1, 2004



Steve Brown, General Manager

European Contact for regulatory topics only: Hewlett Packard GmbH, HQ-TRE, Herrenberger Straße 140, 71034 Boeblingen, Germany. (FAX:+49-7031-143143) .

USA Contact: Hewlett Packard Co., Corporate Product Regulations Manager, 3000 Hanover Street, Palo Alto, CA 94304. Phone: (650) 857-1501.

C

CD

- オーディオの再生 40
- 画像の表示 40
- ビデオの再生 38

D

DVD

- DVDメニュー 39
- 再生 38

DVDプレーヤ

- オーディオ出力 26
- 外部ソースの使用 31, 43
- 内蔵ソースの使用 38
- トラブルシューティング 59

DVIビデオ

- コンピュータの接続 28
- ソースの接続 23
- ポート 12

H

HPサポート 63

J

JPG画像、表示 40

L

LEDの安全性 72

M

MP3オーディオ、再生 40

P

PC、接続 28

S

SCART 24

Sビデオ

- ソースの接続 21
- ポート 12

V

VGA、接続 28

Y

YPbPr. コンポーネントビデオを参照

あ

アクセサリ 14

アナログビデオモードの互換性 71

安全情報 7, 72

オーディオ

- 接続 25
- 調整 35, 45
- トラブルシューティング 60
- ポート 12

音楽CD 40

オンスクリーンメニュー

DVDメニュー 39

言語 49

使用方法 46

リスト 46

音量、調整

か

画像

- 画像モード 33
- 形 34

- 焦点 32
- ズーム 32
- トラブルシューティング 56
- 品質 15, 19, 58
- ゆがみの修正 35
- 画像の品質 19, 58
- 画像モード 33
- 画像、CDから表示 40
- 画像。画像を参照
- 規制情報 73
- クリーニング 7, 51
- 警告ライト
 - 意味 55
 - 設置場所 10
 - トラブルシューティング 55
- ケーブル
 - 接続 19
 - 長さ 15
 - 品質 15
- 言語、変更 46
- 交換、ランプ 52
- コンピュータ、接続 28
- コンポーネントビデオ
 - ソースの接続 20
 - ポート 12
- コンボジットビデオ
 - ソースの接続 22
 - ポート 12

さ

- サービス 65
- サウンド。オーディオを参照
- サブウーファ
 - 設置場所 9
 - 調整 35
- サポート 63
- 室内のレイアウト 15
- 修理サービス 65
- 仕様 69

- 焦点 9, 32
- 診断 62
- 水銀の安全性 73
- ズーム 9, 32
- スクリーン

- 設置場所 17
- 選択 15

接続

- DVIソース 23
- SCARTソース 24
- Sビデオソース 21
- オーディオソース 25
- 画像の品質 15, 19, 58
- コンピュータ 28
- コンポーネントビデオソース 20
- コンボジットビデオソース 22
- サウンドシステム 25
- 電源 18

- セットアップ 15

た

調整

- 画像 33, 45
- サウンド 35, 45
- サブウーファ 35
- セットアップ 46

- デジタルオーディオ。オーディオを参照

電源

- オフにする 30
- オンにする 29
- 接続 18

- 電源のオン/オフ 29

- トラブルシューティング

- オーディオ 60
- 画像 56
- 警告ライト 55
- 始動 56
- 停止 61

内蔵DVDプレーヤ 59

リモコン 62

な

内蔵DVDプレーヤ

使用方法 37

トラブルシューティング 59

は

ビデオソース

選択 31

表示 43

ビデオモードの互換性 71

プロジェクタの移動 30

プロジェクタの投影位置の調整 31

ホームシアター 15

保証 65

ボタン

設置場所 10

メニューを開く 46

ま

メニュー。オンスクリーンメニューを参照

ら

ライト。ランプの警告ライトを参照
ランプ、交換 52

リモコン

電池の取付け 53

トラブルシューティング 62

ボタン 13

メニューを開く 46

レーザの安全性 72

レンズ

カバー 9

クリーニング 51



i n v e n t

© 2004 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

Printed in China

www.hp.com



5990-3696

水銀の安全性

警告: このデジタルプロジェクタのランプには、少量の水銀が含まれています。万一、ランプが破損した場合は、その部屋の換気を十分に行い、近くにあった飲食物をすべて捨てて、プロジェクタ周辺の家具やテーブルの上を十分に掃除してください。部屋を掃除したり、破損したランプを処理した後は手を洗ってください。ランプの廃棄は、環境汚染防止のために法律で規制されている場合があります。廃棄またはリサイクルの方法については、各自治体または廃棄物処理業者にお問い合わせください。ランプの安全性に関する情報については、www.hp.com/hpinfo/globalcitizenship/environment/productdata を参照してください。